

### 3.1.2 水環境

#### (1)水質

##### 1)水質汚濁の状況

水質調査結果は表3.1-34～37に、水質調査地点は図3.1-10に示すとおりである。

水質調査は、事業予定区域の北西側から南東側へ流れる七北田川の今市橋（事業予定区域北側約450m）、福田大橋及び高砂橋で行われているほか、事業予定区域南側を流れる高野川の高野川最下流及び梅田川の大田見橋と福田橋、北西側を流れる要害川の要害川最下流、東側を流れる砂押川の市川橋においても行われている。また、利府町内の砂押川下流及び勿来川下流においても行われている。

湖沼では、ひょうたん池出口、安養寺大堤池出口、与兵衛沼池出口及び加瀬沼出口において行われている。

事業予定区域からの排水が流入する高野川及び梅田川の年平均値は、水素イオン濃度（pH）が7.5～7.8、浮遊物質（SS）が3～18mg/Lであった。

また、七北田川の福田大橋及び梅田川の福田橋においてはダイオキシン類の測定が行われており、その結果は表3.1-38に示すとおりである。

表3.1-34 河川の水質測定結果（生活環境項目：平成27,28年度）

測定地点			項目 類型 (達成 期間)	pH	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	測定 年度
				最小～最大 年平均	最小～最大 年平均	最小～最大 年平均 75%値	最小～最大 年平均	最小～最大 年平均	
仙台市	七北田川	高砂橋	C (ロ)	7.2～8.2 7.6	6.1～13 9.8	<0.5～5.5 1.8 2.2	2～27 6	170～22000 3800	平成27
		福田大橋	B (ロ)	7.0～7.7 7.4	5.1～14 9.6	<0.5～3.0 1.6 1.9	1～12 5	49～49000 5600	
		今市橋	B (ロ)	7.1～8.9 7.7	8.4～13 11	0.6～5.5 2.2 2.8	<1～37 9	230～79000 11000	
	梅田川	福田橋	C (イ)	7.3～7.8 7.5	5.5～13 9.1	0.5～4.4 1.8 2.1	2～140 18	79～920000 90000	
		大田見橋	C (イ)	7.5～8.5 7.8	8.8～14 11	<0.5～5.7 1.3 1.1	<1～8 3	490～920000 87000	
	高野川	高野川最下流	—	17～>60 52	7.3～7.6 7.5	5.9～12 8.9 1.8	4～43 15	460～49000 16000	
	要害川	要害川最下流	—	7.8～8.3 8.1	8.8～14 11	<0.5～1.9 1.2 1.3	<1～6 2	2400～79000 19000	
多賀城市	砂押川	市川橋	C (—)	— 8.0	— 11.4	— 2.3 —	— 11.6	—	平成28
利府町	砂押川	砂押川下流	C (—)	7.8*	12*	0.9*	1*	230*	
	勿来川	勿来川下流	—	7.6*	13*	3.0*	7*	>24000*	
環境基準 (日間平均値)			B	6.5以上 8.5以下	5以上	3以下	25以下	5000以下	
			C			5以下	50以下	—	

※ 利府町においては、平成29年2月9日に採水した試料の測定結果である。

注1) 類型(河川)は以下のとおりである

- AA : 水道1級, 自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの
- A : 水道2級, 水産1級, 水浴及びB以下の欄に掲げるもの
- B : 水道3級, 水産2級及びC以下の欄に掲げるもの
- C : 水産3級, 工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの
- D : 工業用水2級, 農業用水及びEの欄に掲げるもの
- E : 工業用水3級, 環境保全

注2) 達成期間は以下のとおりである

- イ : 直ちに達成
- ロ : 5年以内で可及的速やかに達成
- ハ : 5年を超える期間で可及的速やかに達成

出典 : 「公害関係資料集 平成27年度測定結果」(仙台市環境局)  
「環境データ(水質汚濁)」(平成29年4月、多賀城市市民経済部)  
利府町生活安全課聞き取り (平成29年10月)

表3.1-35 河川の水質測定結果（健康項目：平成27年度）

平均値の単位：mg/L

項目	測定地点	七北田川			梅田川		高野川	要害川	環境基準*
		高砂橋	福田大橋	今市橋	福田橋	大田見橋	高野川 最下流	要害川 最下流	
カドミウム	平均値	<0.0003	<0.0003	—	<0.0003	—	—	—	0.003以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
全シアン	最高値	ND	ND	—	ND	—	—	—	検出されないこと
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
鉛	平均値	<0.005	<0.005	—	<0.005	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
六価クロム	平均値	<0.02	<0.02	—	<0.02	—	—	—	0.05以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
砒素	平均値	<0.005	<0.005	—	<0.005	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
総水銀	平均値	<0.0005	<0.0005	—	<0.0005	—	—	—	0.0005以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
アルキル水銀	平均値	ND	ND	—	ND	—	—	—	検出されないこと
	m/n	0/2	0/2	—	0/2	—	—	—	
PCB	平均値	ND	ND	—	ND	—	—	—	検出されないこと
	m/n	0/2	0/2	—	0/2	—	—	—	
ジクロロメタン	平均値	<0.002	<0.002	—	<0.002	—	—	—	0.02以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
四塩化炭素	平均値	<0.0002	<0.0002	—	<0.0002	—	—	—	0.002以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
1,2-ジクロロエタン	平均値	<0.0004	<0.0004	—	<0.0004	—	—	—	0.004以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
1,1-ジクロロエチレン	平均値	<0.002	<0.002	—	<0.002	—	—	—	0.1以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
シス-1,2-ジクロロエチレン	平均値	<0.004	<0.004	—	<0.004	—	—	—	0.04以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
1,1,1-トリクロロエタン	平均値	<0.0005	<0.0005	—	<0.0005	—	—	—	1以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
1,1,2-トリクロロエタン	平均値	<0.0006	<0.0006	—	<0.0006	—	—	—	0.006以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
トリクロロエチレン	平均値	<0.001	<0.001	—	<0.001	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
テトラクロロエチレン	平均値	<0.0005	<0.0005	—	<0.0005	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
1,3-ジクロロプロペン	平均値	<0.0002	<0.0002	—	<0.0002	—	—	—	0.002以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
チウラム	平均値	<0.0006	<0.0006	—	<0.0006	—	—	—	0.006以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
シマジン	平均値	<0.0003	<0.0003	—	<0.0003	—	—	—	0.003以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
チオベンカルブ	平均値	<0.001	<0.001	—	<0.001	—	—	—	0.02以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
ベンゼン	平均値	<0.001	<0.001	—	<0.001	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
セレン	平均値	<0.002	<0.002	—	<0.002	—	—	—	0.01以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	平均値	0.47	0.54	0.49	0.66	0.27	0.71	0.56	10以下
	m/n	0/24	0/24	0/12	0/24	0/12	0/12	0/12	
フッ素	平均値	—	—	—	—	—	—	—	0.8以下
	m/n	—	—	—	—	—	—	—	
ホウ素	平均値	—	—	—	—	—	—	—	1以下
	m/n	—	—	—	—	—	—	—	
1,4-ジオキサン	平均値	<0.005	<0.005	—	<0.005	—	—	—	0.05以下
	m/n	0/4	0/4	—	0/4	—	—	—	

※ 年間平均値とする。ただし、全シアンについては、最高値とする。

注) m/n：環境基準を超える検体数/総検体数、ND：不検出

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

表3.1-36 湖沼の水質測定結果（生活環境項目：平成24,28年度）

測定地点		項目	pH	DO (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	測定 年度
			最小～最大 年平均	最小～最大 年平均	最小～最大 年平均 75%値	最小～最大 年平均	最小～最大 年平均	
与兵衛沼	与兵衛沼池出口		7.4～7.9 7.7	7.9～14 10	8.9～28 15 12	7～58 26	7.9E+01～2.5E+03 9.3E+02	平成24
			7.6～7.9 7.7	7.6～11 9.4	7.2～19 11 8.2	14～33 20	2.4E+02～4.9E+03 2.0E+03	
			7.1～7.8 7.5	2.1～11 8.5	7.1～9.9 8.1 7.8	5～14 10	7.0E+01～1.7E+04 4.5E+03	
加瀬沼	加瀬沼出口		7.6～8.7 8.0	5.5～12 9.9	6.3～13 8.5 —	3～18 6.5	7.8E+00～4.9E+03 1.7E+03	平成28

出典：「公害関係資料集 平成24年度測定結果」（仙台市環境局）

「公共用水域の水質測定結果【速報値】平成28年4月分～平成29年3月分」（平成29年5月、宮城県環境対策課）

表3.1-37 湖沼の水質測定結果（健康項目：平成24,28年度）

測定地点		項目	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素		測定 年度
			平均値 (mg/L)	m/n	
与兵衛沼	与兵衛沼池出口		0.054	0/4	平成24
安養寺大堤	安養寺大堤池出口		0.033	0/4	
ひょうたん池	ひょうたん池出口		0.22	0/4	
加瀬沼	加瀬沼出口		0.045	—	平成28
環境基準			10以下		

注) m/n：環境基準を超える検体数/総検体数

出典：「公害関係資料集 平成24年度測定結果」（仙台市環境局）

「公共用水域の水質測定結果【速報値】平成28年4月分～平成29年3月分」

（平成29年5月、宮城県環境対策課）

表3.1-38 ダイオキシン類監視結果（平成27年度）

単位：pg-TEQ/L

測定地点		項目	ダイオキシン類
七北田川	福田大橋		0.037
梅田川	福田橋		0.21
環境基準			1以下

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

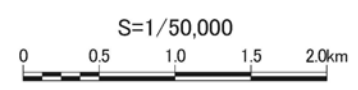


**凡 例**

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  河 川
-  湖 沼
-  調査地点

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」(仙台市環境局)  
「環境データ(水質汚濁)」(平成29年4月、多賀城市市民経済部)  
「公共用水域の水質測定結果【速報値】」(平成29年5月、宮城県環境対策課)  
利府町生活安全課聞き取り(平成29年10月)

図3.1-10 水質調査地点



## 2) 発生源の状況

関係地域における水質汚濁防止法に基づく特定施設は、表3.1-39及び図3.1-11に示すとおりであり、「自動式車両洗浄施設」が最も多い。

また、下水道法に基づく特定施設は、表3.1-40及び図3.1-11に示すとおりであり、「自動式車両洗浄施設」が最も多い。

なお、関係地域のうち多賀城市域においては、水質汚濁防止及び下水道法に基づく特定施設はなく（平成29年8月、多賀城市市民経済部生活環境課聞き取り）、利府町域においては、水質汚濁防止法に基づく特定施設はない（平成29年10月、利府町生活安全課聞き取り）。

表3.1-39 水質汚濁防止法に基づく特定施設

市町名	番号	施設の種類	施設数
仙台市	1の2	畜産農業又はサービスの用に供する施設であつて、次に掲げるもの ロ 牛房施設（牛房の総面積が200㎡未満の事業場に係るものを除く。）	1
	23の2	新聞業、出版業、印刷業又は製版業の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 自動式フィルム現像洗浄施設 ロ 自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設	2 (イ1,ロ1)
	66の3	旅館業（旅館業法（昭和23年法律第138号）第2条第一項に規定するもの（下宿営業を除く。）をいう。）の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ ちゆう房施設 ロ 洗濯施設 ハ 入浴施設	1
	67	洗濯業の用に供する洗浄施設	2
	68	写真現像業の用に供する自動式フィルム洗浄施設	2
	71	自動式車両洗浄施設	10
	71の2	科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）に関する研究、試験、検査又は専門教育を行う事業場で環境省令で定めるものに設置されるそれらの業務の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 洗浄施設	2

注) 水質汚濁防止法施行令第1条別表第1より、関係地域に係る施設の種類のみ抜粋。

出典：「水質汚濁防止法に基づく特定事業場一覧（平成29年3月31日現在）」（仙台市環境局）

表3.1-40 下水道法に基づく特定施設

市町名	番号	施設の種類の	施設数
仙台市	17	豆腐又は煮豆の製造業の用に供する湯煮施設	1
	23の2	新聞業、出版業、印刷業又は製版業の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 自動式フィルム現像洗浄施設 ロ 自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設	3 (イ1,ロ2)
	66の5	弁当仕出屋又は弁当製造業の用に供するちゅう房施設（総床面積が360㎡未満の事業場に係るものを除く。）	1
	66の6	飲食店（次号及び第66号の8に掲げるものを除く。）に設置されるちゅう房施設（総床面積が420㎡未満の事業場に係るものを除く。） 66の7 そば店、うどん店、すし店のほか、喫茶店その他の通常主食と認められる食事を提供しない飲食店（次号に掲げるものを除く。）に設置されるちゅう房施設（総床面積が630㎡未満の事業場に係るものを除く。） 66の8 料亭、バー、キャバレー、ナイトクラブその他これらに類する飲食店で設備を設けて客の接待をし、又は客にダンスをさせるものに設置されるちゅう房施設（総床面積が1,500㎡未満の事業場に係るものを除く。）	1
	67	洗濯業の用に供する洗浄施設	4
	68	写真現像業の用に供する自動式フィルム現像洗浄施設	1
	71	自動式車両洗浄施設	5
	71の2	科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）に関する研究、試験、検査又は専門教育を行う事業場で環境省令で定めるものに設置されるそれらの業務の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 洗浄施設	2
利府町	2	畜産食料品製造業の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 原料処理施設 ロ 洗浄施設（洗びん施設を含む。） ハ 湯煮施設	1
	4	野菜又は果実を原料とする保存食料品製造業の用に供する施設であつて、次に掲げるもの イ 原料処理施設 ロ 洗浄施設 ハ 圧搾施設 ニ 湯煮施設	1
	66の4	共同調理場（学校給食法（昭和29年法律第160）第6条に規定する施設をいう。以下同じ。）に設置されるちゅう房施設（業務の用に供する部分の総床面積（以下単に「総床面積」という。）が500平方メートル未満の事業場に係るものを除く。）	2
	71	自動式車両洗浄施設	1
	不明	—	1
	不明	—	1

注) 水質汚濁防止法施行令別表第1より、関係地域に係る施設の種類のみの抜粋。

出典：「下水道法に基づく特定事業場一覧（平成29年3月31日現在）」（仙台市建設局）

利府町生活安全課聞き取り（平成29年10月）

### 3) 水質に係る苦情の状況

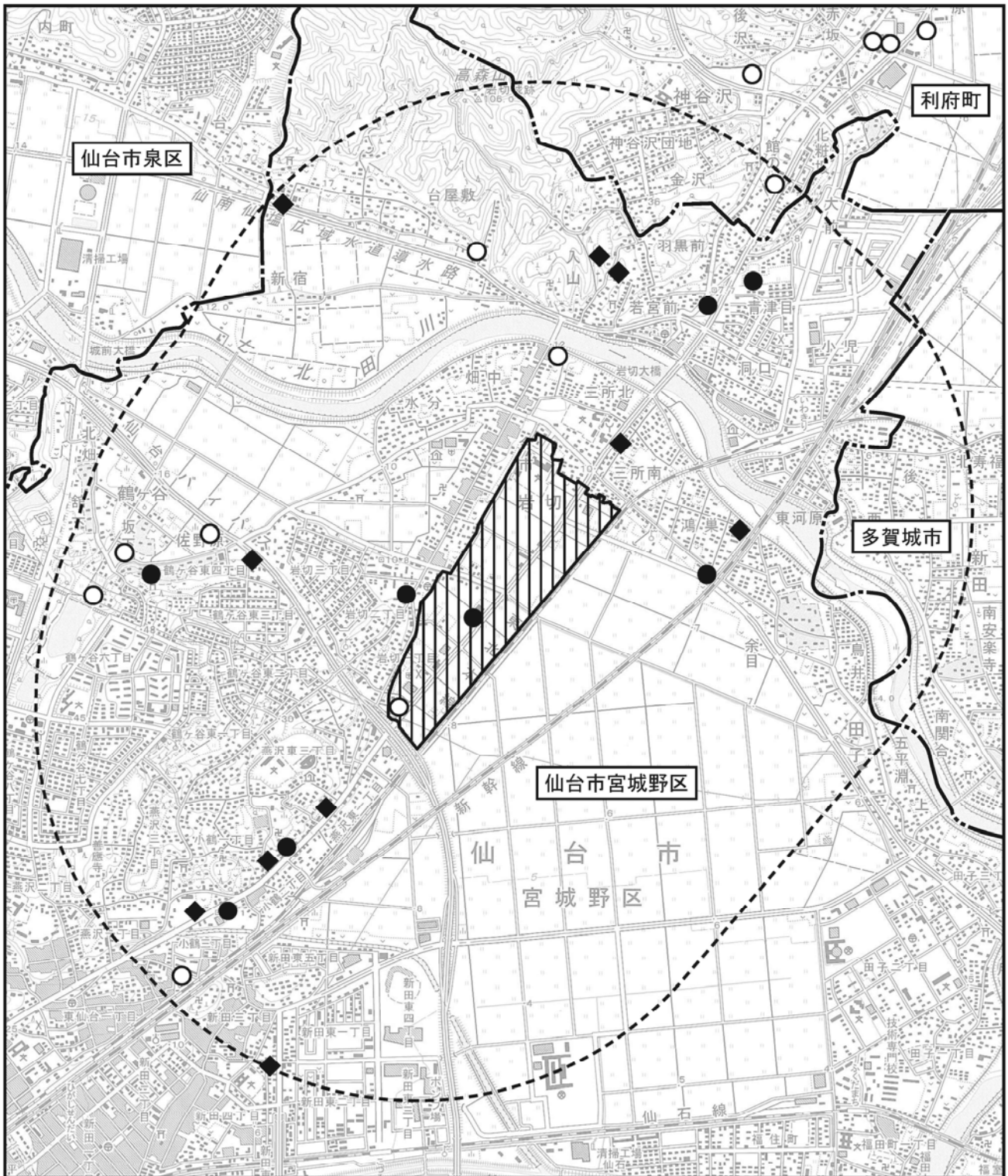
仙台市、多賀城市及び利府町における平成23～27年度の騒音に係る苦情件数の経年変化は、表3.1-41に示すとおりである。仙台市ではほぼ横ばいであり、多賀城市では概ね減少傾向にある。利府町では0件である。

表3.1-41 水質に係る苦情件数の経年変化（平成23～27年度）

単位：件

市町名	年度				
	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27
仙台市	1	1	0	1	2
多賀城市	6	3	1	0	1
利府町	0	0	0	0	0

出典：「平成23～27年度 公害苦情調査結果報告書結果」（宮城県生活環境部）



**凡例**



事業予定区域



市町界



区界



関係地域の範囲  
(事業予定区域から  
1,500mの範囲)

**【特定施設を有する事業場】**



● 水質汚濁防止法に基づく特定施設



○ 下水道法に基づく特定施設



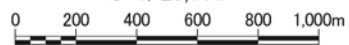
◆ 水質汚濁防止法及び下水道法に基づく特定施設

出典：「水質汚濁防止法に基づく特定事業場一覧 平成29年3月31日現在」(仙台市環境局)  
 「下水道法に基づく特定事業場一覧 平成29年3月31日現在」(仙台市建設局)  
 利府町生活安全課聞き取り(平成29年10月)

図3.1-11

特定施設を有する事業場  
(水質：水質汚濁防止法、下水道法)

S=1/25,000





## (2)底質

### 1)底質汚染の状況

底質の調査は、七北田川の福田大橋、高砂橋及び梅田川の福田橋で行われており、調査結果は表3.1-42に示すとおりである。

福田大橋及び福田橋においては底質のダイオキシン類監視調査も行われており、表3.1-43に示すとおり、いずれの地点も環境基準を達成している。

表3.1-42 河川の底質調査結果（平成27年度）

項目		調査地点		梅田川 福田橋
		七北田川 福田大橋	七北田川 高砂橋	
pH	H <sub>2</sub> O	7.1	7.2	7.1
	KCl	6.5	6.6	6.4
COD (mg/kg)		<2,000	21,000	<2,000
全窒素 (mg/kg)		210	2,200	200
全燐 (mg/kg)		220	580	160
n-ヘキサン抽出物質 (mg/kg)		140	3,100	74
カドミウム (mg/kg)		<0.05	0.25	<0.05
鉛 (mg/kg)		2.2	11	3.1
砒素 (mg/kg)		5.1	13	3.7
総水銀 (mg/kg)		0.01	0.08	0.01
全クロム (mg/kg)		16	22	12
硫化物 (mg/kg)		<20	930	42

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

表3.1-43 底質のダイオキシン類監視結果（平成27年度）

単位：pg-TEQ/g

項目	調査地点	七北田川	梅田川	環境基準
		福田大橋	福田橋	
ダイオキシン類		0.13	0.36	150以下

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

### 2)発生源の状況

底質汚染は、水質汚濁等が原因の一つと考えられており、特定はされていない。なお、関係地域における水質汚濁に関する発生源の状況については、「(1)水質 2)発生源の状況」（p.3.1-38）で示したとおりである。

### (3)地下水汚染

#### 1)地下水汚染の状況

平成23～27年度において、図3.1-12に示す仙台市内の13区画で概況調査が行われ、うち2区画ではダイオキシン類に関する調査も行われている。また、6区画において継続監視調査が行われている。

調査結果は、表3.1-44～46に示すとおりである。

概況調査のうち要監視項目は宮城野区の1区画において全マンガンが指針値を超えていた。また、継続監視調査では宮城野区の1区画においてテトラクロロエチレンが、宮城野区の2区画において硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が、それぞれ環境基準を達成していなかった。ダイオキシン類に関する調査においては、環境基準を達成していた。

なお、調査範囲のうち多賀城市域及び利府町域では、地下水の調査は実施されていない（平成29年8月に多賀城市市民経済部生活環境課にて、平成29年10月に利府町生活安全課にて聞き取り）。

#### 2)発生源の状況

地下水汚染は、水質汚濁や土壌汚染等が原因の一つとして考えられており、特定はされていない。なお、関係地域における水質汚濁に関する発生源の状況については、「(1)水質 2)発生源の状況」(p.3.1-38)で示したとおりである。また、土壌汚染に関する発生源の状況については、「3.1.3 土壌環境 (3)土壌汚染」に示すとおりである。

表3.1-44(1) 地下水概況調査結果（環境基準項目、要監視項目）

単位:℃(水温)、mg/L(水温、pH以外)

調査項目	区名	宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	泉区	
	メッシュコード	57403726	57403733	57403737	57403743	57403744	57403753	
	調査日 基準値 ・指針値	H27.11.12	H25.1.15	H27.1.13	H27.1.13	H24.1.19	H24.1.19	
環境基準項目	水温	—	15.4	9.8	10.5	11.0	13.3	10.2
	pH	—	7.6	6.7	6.8	6.1	6.3	7.7
	カドミウム	0.003以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	全シアン	検出されないこと	<0.1	ND	ND	ND	ND	ND
	鉛	0.01以下	<0.005	0.087	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	六価クロム	0.05以下	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	砒素	0.01以下	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	総水銀	0.0005以下	<0.0005	<0.0005	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	アルキル水銀	検出されないこと	<0.0005	ND	—	—	ND	ND
	PCB	検出されないこと	<0.0005	ND	ND	ND	ND	ND
	ジクロロメタン	0.02以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	四塩化炭素	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	塩化ビニルモノマー	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	1,2-ジクロロエタン	0.004以下	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	1以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
	トリクロロエチレン	0.01以下	<0.001	<0.002*	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	テトラクロロエチレン	0.01以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	チウラム	0.006以下	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
	シマジン	0.003以下	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
	チオベンカルブ	0.02以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
	ベンゼン	0.01以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	セレン	0.01以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10以下	<0.015	0.23	6.7	2.2	0.27	0.10
	フッ素	0.8以下	0.1	<0.08	<0.08	<0.08	0.08	0.08
	ホウ素	1以下	0.04	0.01	0.02	<0.02	0.01	0.01
	1,4-ジオキサン	0.05以下	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
要監視項目	クロロホルム	0.06以下	<0.006	—	—	—	—	—
	1,2-ジクロロプロパン	0.06以下	<0.006	—	—	—	—	—
	p-ジクロロベンゼン	0.2以下	<0.02	—	—	—	—	—
	イソキサチオン	0.008以下	<0.0008	—	—	—	—	—
	ダイアジノン	0.005以下	<0.0005	—	—	—	—	—
	フェニトロチオン(MEP)	0.003以下	<0.0003	—	—	—	—	—
	イソプロチオラン	0.04以下	<0.004	—	—	—	—	—
	オキシ銅(有機銅)	0.04以下	<0.004	—	—	—	—	—
	クロタロニル(TPN)	0.05以下	<0.005	—	—	—	—	—
	プロピザミド	0.008以下	<0.0008	—	—	—	—	—
	EPN	0.006以下	<0.001	—	—	—	—	—
	ジクロルボス(DDVP)	0.008以下	<0.0008	—	—	—	—	—
	フェノブカルブ(BPMC)	0.03以下	<0.003	—	—	—	—	—
	イプロベンホス(IBP)	0.008以下	<0.0008	—	—	—	—	—
	クロルニトロフェン(CNP)	—	<0.001	—	—	—	—	—
	トルエン	0.6以下	<0.06	—	—	—	—	—
	キシレン	0.4以下	<0.04	—	—	—	—	—
	フタル酸ジエチルヘキシル	0.06以下	<0.006	—	—	—	—	—
	ニッケル	—	0.001	—	—	—	—	—
	モリブデン	0.07以下	<0.007	—	—	—	—	—
	アンチモン	0.02以下	<0.002	—	—	—	—	—
	エピクロヒドリル	0.0004以下	<0.00004	—	—	—	—	—
全マンガン	0.2以下	0.21	—	—	—	—	—	
ウラン	0.002以下	<0.0002	—	—	—	—	—	

注1) 環境基準項目については基準値、要監視項目については指針値である。

注2) 太枠は、基準値超過を示す。

※ 測定時点の基準値は、「0.03以下」であった。

出典：「公害関係資料集 平成23,24,26,27年度測定結果」(仙台市環境局)

表3.1-44(2) 地下水概況調査結果（環境基準項目、要監視項目）

単位:℃(水温)、mg/L(水温、pH以外)

調査項目	区名	宮城野区	宮城野区	泉区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	
	メッシュコード	57403754	57403755	57403763	57403764	57403765	57403766	
	調査日 基準値・ 指針値	H24.1.18	H27.1.13	H26.11.10	H24.1.19	H27.1.13	H27.1.14	
環境基準項目	水温	—	11.0	11.0	16	12.6	11.0	11.7
	pH	—	6.6	7.5	8.9	7.2	7.7	7.1
	カドミウム	0.003以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	全シアン	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	鉛	0.01以下	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	六価クロム	0.05以下	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	砒素	0.01以下	<0.005	0.006	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	総水銀	0.0005以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	アルキル水銀	検出されないこと	ND	—	ND	ND	—	—
	PCB	検出されないこと	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	ジクロロメタン	0.02以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	四塩化炭素	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	塩化ビニルモノマー	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	1,2-ジクロロエタン	0.004以下	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	1以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
	トリクロロエチレン	0.01以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	テトラクロロエチレン	0.01以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	0.002以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	チウラム	0.006以下	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
	シマジン	0.003以下	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
	チオベンカルブ	0.02以下	<0.001	<0.002	<0.002	<0.001	<0.002	<0.002
	ベンゼン	0.01以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	セレン	0.01以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10以下	3.6	1.4	<0.015	2.1	0.36	1.2
	フッ素	0.8以下	<0.08	<0.08	0.09	<0.08	<0.08	<0.08
	ホウ素	1以下	0.01	0.06	0.02	0.01	<0.02	0.03
	1,4-ジオキサン	0.05以下	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
要監視項目	クロロホルム	0.06以下	—	—	<0.006	—	—	—
	1,2-ジクロロプロパン	0.06以下	—	—	<0.006	—	—	—
	p-ジクロロベンゼン	0.2以下	—	—	<0.02	—	—	—
	イソキサチオン	0.008以下	—	—	<0.0008	—	—	—
	ダイアジノン	0.005以下	—	—	<0.0005	—	—	—
	フェニトロチオン(MEP)	0.003以下	—	—	<0.0003	—	—	—
	イソプロチオラン	0.04以下	—	—	<0.004	—	—	—
	オキシ銅(有機銅)	0.04以下	—	—	<0.004	—	—	—
	クロタロニル(TPN)	0.05以下	—	—	<0.005	—	—	—
	プロピザミド	0.008以下	—	—	<0.0008	—	—	—
	EPN	0.006以下	—	—	<0.001	—	—	—
	ジクロロボス(DDVP)	0.008以下	—	—	<0.0008	—	—	—
	フェノブカルブ(BPMC)	0.03以下	—	—	<0.003	—	—	—
	イプロベンホス(IPB)	0.008以下	—	—	<0.0008	—	—	—
	クロルニトロフェン(CNP)	—	—	—	<0.001	—	—	—
	トルエン	0.6以下	—	—	<0.06	—	—	—
	キシレン	0.4以下	—	—	<0.04	—	—	—
	フタル酸ジエチルヘキシル	0.06以下	—	—	<0.006	—	—	—
	ニッケル	—	—	—	<0.001	—	—	—
	モリブデン	0.07以下	—	—	<0.007	—	—	—
	アンチモン	0.02以下	—	—	<0.002	—	—	—
	エピクロヒドリン	0.0004以下	—	—	<0.00004	—	—	—
	全マンガン	0.2以下	—	—	<0.02	—	—	—
ウラン	0.002以下	—	—	<0.0002	—	—	—	

注1) 環境基準項目については基準値、要監視項目については指針値である。

注2) 太枠は、基準値超過を示す。

出典：「公害関係資料集 平成23,26年度測定結果」（仙台市環境局）

表3.1-44(3) 地下水概況調査結果（環境基準項目、要監視項目）

単位:℃(水温)、mg/L(水温、pH以外)

調査項目	区名	泉区	
	メッシュコード	57403774	
	調査日	H25.1.15	
	基準値 ・指針値		
環境基準項目	水温	—	10.0
	pH	—	7.8
	カドミウム	0.003以下	<0.001
	全シアン	検出されないこと	ND
	鉛	0.01以下	<0.005
	六価クロム	0.05以下	<0.02
	砒素	0.01以下	0.007
	総水銀	0.0005以下	<0.0005
	アルキル水銀	検出されないこと	ND
	PCB	検出されないこと	ND
	ジクロロメタン	0.02以下	<0.002
	四塩化炭素	0.002以下	<0.0002
	塩化ビニルモノマー	0.002以下	<0.0002
	1,2-ジクロロエタン	0.004以下	<0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	<0.002
	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	<0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	1以下	<0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	<0.0006
	トリクロロエチレン	0.01以下	<0.002*
	テトラクロロエチレン	0.01以下	<0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	0.002以下	<0.0002
	チウラム	0.006以下	<0.0006
	シマジン	0.003以下	<0.0003
	チオベンカルブ	0.02以下	<0.002
	ベンゼン	0.01以下	<0.001
	セレン	0.01以下	<0.002
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10以下	<0.015
	フッ素	0.8以下	0.09
	ホウ素	1以下	<0.01
	1,4-ジオキサン	0.05以下	<0.005
要監視項目	クロホルム	0.06以下	—
	1,2-ジクロロプロパン	0.06以下	—
	p-ジクロロベンゼン	0.2以下	—
	イソキサチオン	0.008以下	—
	ダイアジノン	0.005以下	—
	フェニトロチオン(MEP)	0.003以下	—
	イソプロチオラン	0.04以下	—
	オキシ銅(有機銅)	0.04以下	—
	クロタロニル(TPN)	0.05以下	—
	プロピザミド	0.008以下	—
	EPN	0.006以下	—
	ジクロロボス(DDVP)	0.008以下	—
	フェノブカルブ(BPMC)	0.03以下	—
	イプロベンホス(IPB)	0.008以下	—
	クロルニトロフェン(CNP)	—	—
	トルエン	0.6以下	—
	キシレン	0.4以下	—
	フタル酸ジエチルヘキシル	0.06以下	—
	ニッケル	—	—
	モリブデン	0.07以下	—
	アンチモン	0.02以下	—
	エピクロヒドリン	0.0004以下	—
全マンガン	0.2以下	—	
ウラン	0.002以下	—	

注1) 環境基準項目については基準値、要監視項目については指針値である。

注2) 太枠は、基準値超過を示す。

※ 測定時点の基準値は、「0.03以下」であった。

出典：「公害関係資料集 平成23,24,26,27年度測定結果」（仙台市環境局）

表3.1-45 地下水水質調査結果 (ダイオキシン類)

単位: pg-TEQ/L

調査項目	区名	宮城野区	宮城野区
	メッシュコード	57403755	57403763
	調査日 基準値	H24.12.20	H26.11.10
ダイオキシン類年平均値	1以下	0.077	0.016

出典: 「公害関係資料集 平成24,26年度測定結果」 (仙台市環境局)

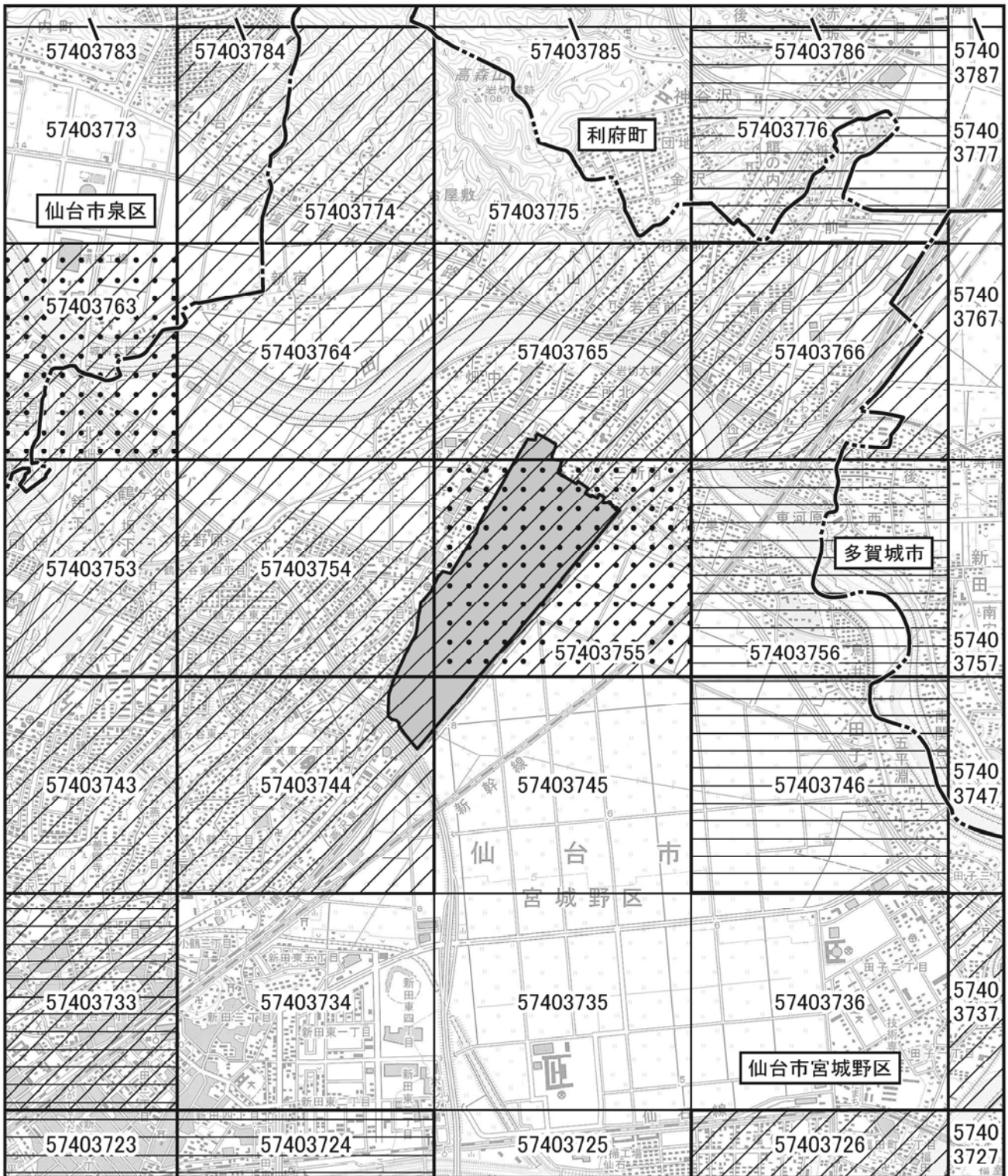
表3.1-46 地下水継続監視調査結果

単位: °C (水温)、mg/L (水温、pH以外)


調査項目	区名	宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区	宮城野区
	メッシュコード	57403723	57403724	57403733	57403746	57403756	57403776
	調査日 基準値	H27.10.6	H25.7.10	H27.10.6	H25.7.10	H27.10.6	H27.10.6
水温	—	17.6	16.9	14.9	18.9	15.8	15.5
pH	—	7.7	6.7	7.4	6.8	7.9	6.4
1,2-ジクロロエタン	0.004以下	<0.0004	<0.0004	—	—	—	—
1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	<0.002	<0.002	—	—	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	1以下	<0.0005	<0.0005	—	—	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	<0.0006	<0.0006	—	—	—	—
トリクロロエチレン	0.01以下	<0.001	<0.002	—	—	—	—
テトラクロロエチレン	0.01以下	0.011	0.0066	—	—	—	—
1,4-ジオキサン	0.05以下	—	<0.005	—	—	—	—
塩化ビニルモノマー	0.002以下	<0.0002	<0.0002	—	—	—	—
1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	<0.004	<0.004	—	—	—	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10以下	—	—	—	14	3.9	16
亜硝酸性窒素	—	—	—	—	0.015	<0.005	<0.005
アンモニア性窒素	—	—	—	—	<0.05	—	—
六価クロム	0.05以下	—	—	—	—	—	—
鉛	0.01以下	—	—	<0.005	—	—	—
砒素	0.01以下	—	—	—	—	—	—

注) 太枠は、基準値超過を示す。

出典: 「公害関係資料集 平成25,27年度測定結果」 (仙台市環境局)



**凡 例**

- |  |  |
|--|--|
|  事業予定区域 |  概況調査地点         |
|  市町界    |  ダイオキシンに関する調査地点 |
|  区 界    |  継続監視調査地点       |

出典：「公害関係資料集 平成23～27年度測定結果」(仙台市環境局)

図3.1-12 地下水水質調査地点

S=1/25,000  
0 200 400 600 800 1,000m



#### (4)水象

##### 1)河川・湖沼等の分布の状況

主要な河川・湖沼等の分布は、図3.1-13に示すとおりである。

事業予定区域北側約480mには二級河川七北田川があり、事業予定区域の北西側から南東側へと流れている。また、南側約950mには二級河川高野川があり、事業予定区域の南南東側約2.1kmの地点で二級河川梅田川に合流し、さらに約2.8km下流の地点で七北田川に合流している。主要な河川の概要は、表3.1-47に示すとおりである。

主要な湖沼は、事業予定区域西側約1.5kmにひょうたん池、東北東側約2.9kmに砂押川遊水地、東北東側約3.9kmにその一部が多賀城市と利府町にかかる加瀬沼等がある。

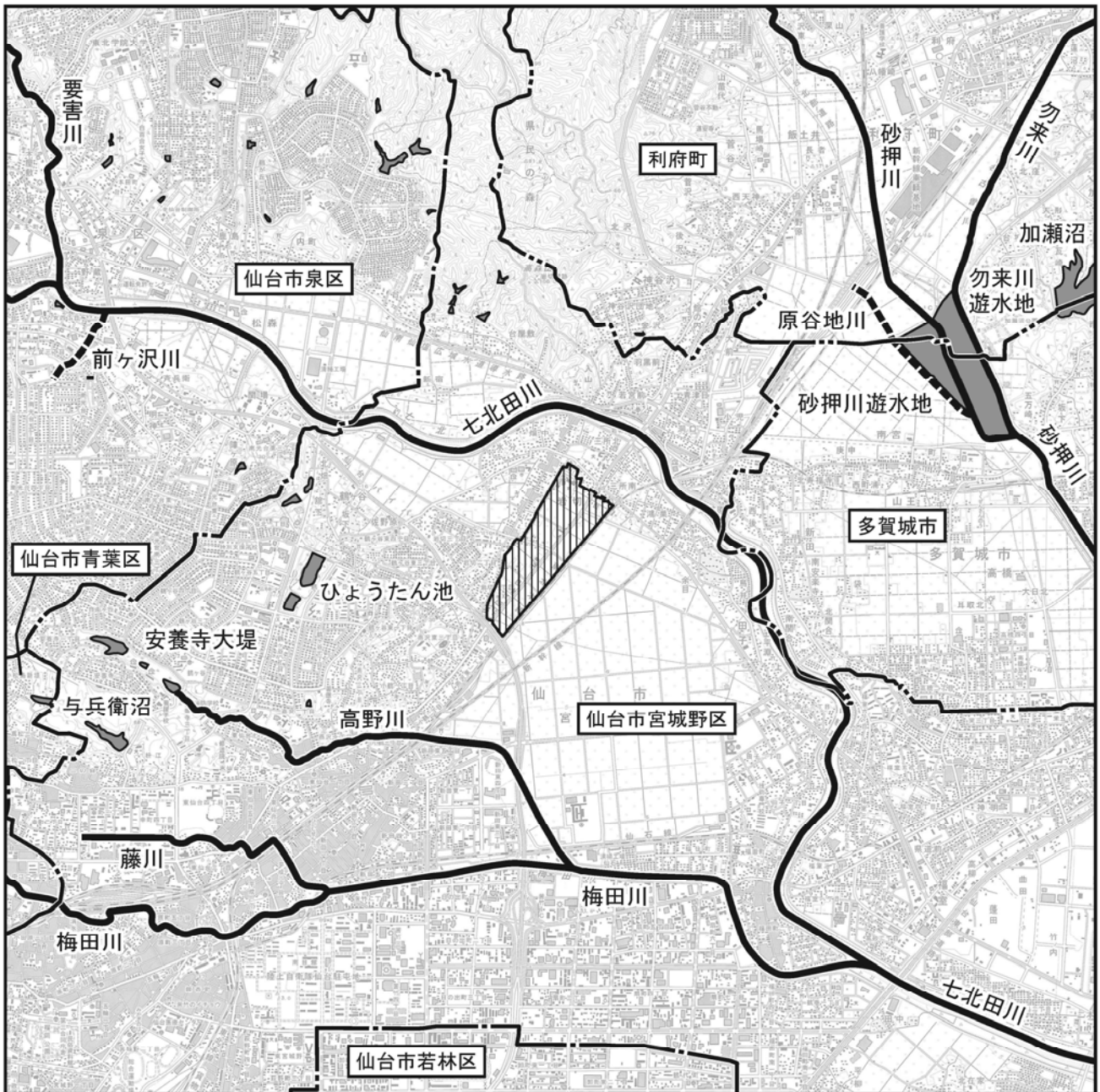
その他、事業予定区域北西側の仙台市泉区内をはじめ、周辺には溜池も点在している。

表3.1-47 主要な河川







種別	河川名	総延長(m)
二級河川	七北田川	40,899
	梅田川	13,035
	高野川	3,900
	藤川	1,500
	要害川	6,000
	勿来川	7,456
	砂押川	14,491
準用河川	前ヶ沢川	510
	原谷地川	1,400

出典：「宮城県河川・海岸図」（平成29年3月、宮城県）



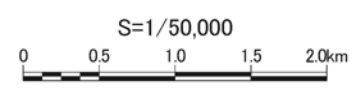


凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  二級河川
-  準用河川
-  湖 沼 (主要な湖沼のみ名称記載)

出典：「宮城県河川・海岸図」(平成29年3月、宮城県)  
「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年3月、仙台市)

図3.1-13 水象の状況



## 2) 地下水・湧水の状況

仙台市内では平成11年度の調査において5,325ヶ所（うち、宮城野区では41ヶ所）、多賀城市内では平成21～22年度の調査において20ヶ所の飲用井戸が確認されている。利府町においては、調査は行われていない（平成29年10月、利府町生活安全課聞き取り）。

なお、調査範囲に湧水は存在しない。

## 3) 水辺の状況

七北田川や砂押川等の川沿いには、ヨシクラス、ヤナギ低木群落、ススキ群団、自然裸地等が、鶴ヶ谷中央公園内にはヒルムシロクラスが分布しており、そのうち、植生自然度10であるヨシクラス及びヒルムシロクラス、植生自然度9であるヤナギ低木群落は、仙台市において「自然性の高い植生」として位置づけられている。また、多賀城市と利府町にまたがる加瀬沼にはヒルムシロクラス（植生自然度10）が分布している（「3.1.4 生物環境 (1)植物 (2)植生の状況」(p.3.1-69) 参照）。

## 4) 水源地の状況

主要な水源地としては、事業予定区域北側約480mに流れる二級河川七北田川の最上流部に七北田ダムが存在する。

農業用水については、堰や揚水機等の河川取水施設やため池等から供給されており、事業予定区域周辺には七北田川の薄ヶ沢堰から供給されている。その詳細は「3.2.3 水利用 (1)水利権の設定及び利水の状況」(p.3.2-10) に示すとおりである。

工業用水については、仙塩工業用水道事業及び仙台圏工業用水道事業により給水され、その詳細は「3.2.4 社会資本整備等 (2)上水道・下水道等 (3)工業用水」(p.3.2-19) に示すとおりである。

### 3.1.3 土壌環境

#### (1) 地形・地質

##### 1) 地形・地質の状況

地形の状況は、図3.1-14に示すとおりである。

仙台市は東側が太平洋に面し、西に向かって、沖積平野・台地、丘陵地、山地が分布し、西端部は奥羽山脈となっている。また、奥羽山脈を源として名取川、広瀬川、七北田川が市域を西から東に流下して太平洋へ注いでいる。調査範囲のうち、七北田川沿い及び東側は沖積平野であり、北側及び西側は丘陵地である。事業予定区域は、西側の一部を丘陵地に接した沖積平野に位置し、平坦な地形である。

地質の状況は、図3.1-15に示すとおりである。調査範囲のうち、七北田川沿い及び東側は砂及び粘土を主とした沖積層であり、西側は砂岩、凝灰岩、礫岩等を主とした亀岡層、七北田層等が分布している。事業予定区域は、砂及び粘土を主とした沖積層に位置する。

なお、事業予定区域の隣接地における「環境影響評価書 ー仙台貨物ターミナル駅移転計画ー」（平成29年10月、日本貨物鉄道株式会社）によると、隣接地は砂質土層や粘性土層の互層構造の沖積層厚が約9～12m分布し、「液状化の判定を行う必要がある土層が存在している」とされている。また、現況地形における液状化危険度の予測結果は、「液状化危険度は低い」及び「液状化危険度が高い」とされている。事業予定区域においても同様のことが想定される。

##### 2) 注目すべき地形・地質

注目すべき地形・地質は、表3.1-48及び図3.1-16に示すとおりであり、活断層地形の「長町・利府」及び「大年寺山」が存在する。

事業予定区域内には、「長町・利府」が存在している。

表3.1-48 注目すべき地形・地質

No.	名称	備考
1	長町・利府	活断層地形
2	大年寺山	活断層地形

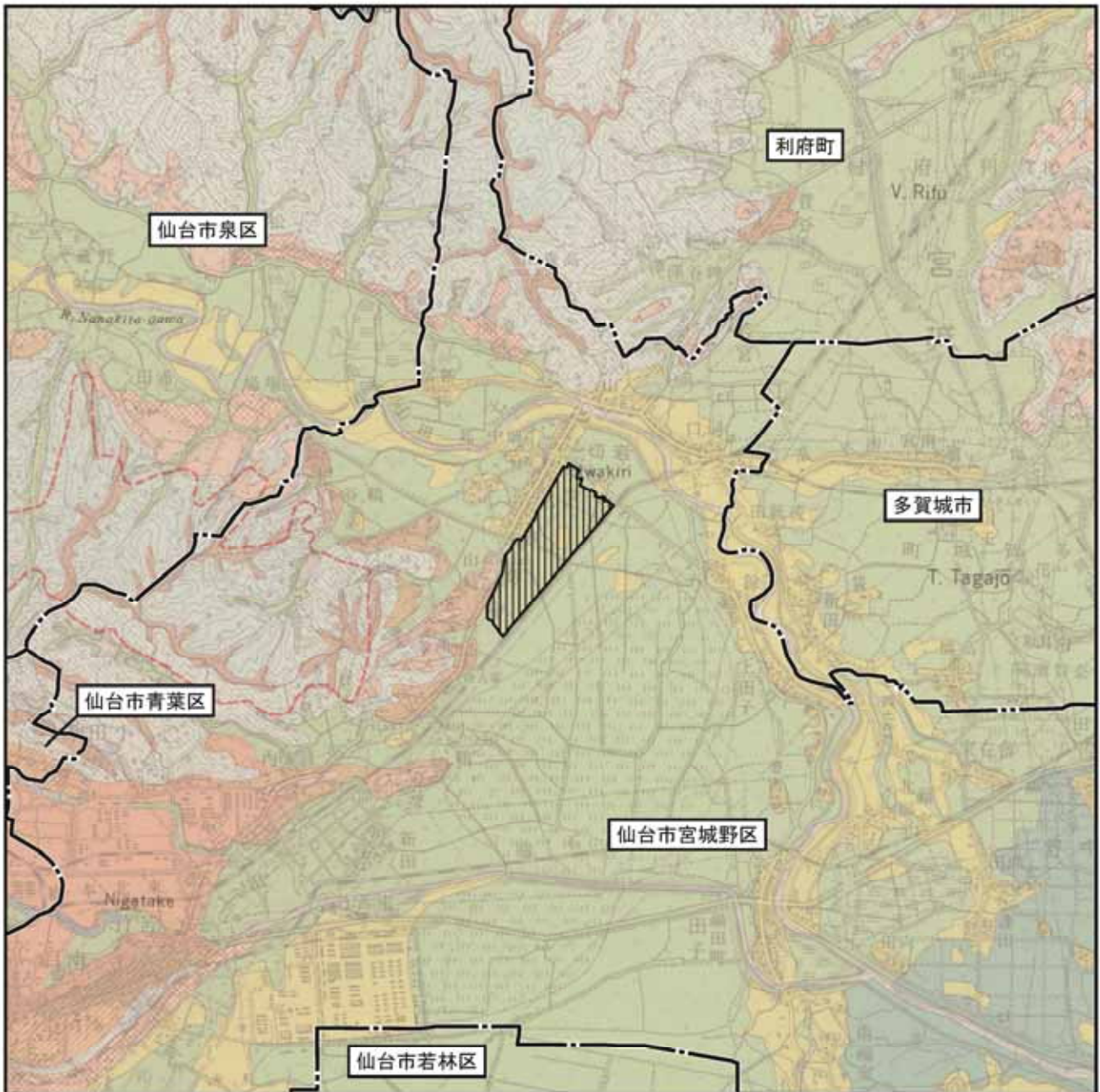
注) No.は、図3.1-16に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）




##### 3) 災害危険地形

調査範囲における災害の危険箇所は、図3.1-17に示すとおりであり、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づく指定地域（急傾斜地崩壊危険区域）や、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流及び土石流危険区域が存在する。





なお、事業予定区域内には、これら危険箇所は存在しない。



**凡 例**

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界

**丘陵地**

-  丘頂緩斜面および丘腹緩斜面
-  丘麓緩斜面
-  急斜面(谷密度80以上)
-  急斜面(谷密度80未満)





**砂礫台地**

-  Gt I (上位)
-  Gt II+(中位)
-  Gt II (中位)
-  Gt III+(下位)
-  Gt III (下位)





**岩石台地**

-  Rt I (上位)
-  Rt II (中位)
-  Rt III (下位)

**低 地**

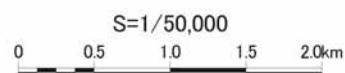
-  谷底平野
-  自然堤防および砂堆・浜堤
-  海岸平野
-  河原および浜

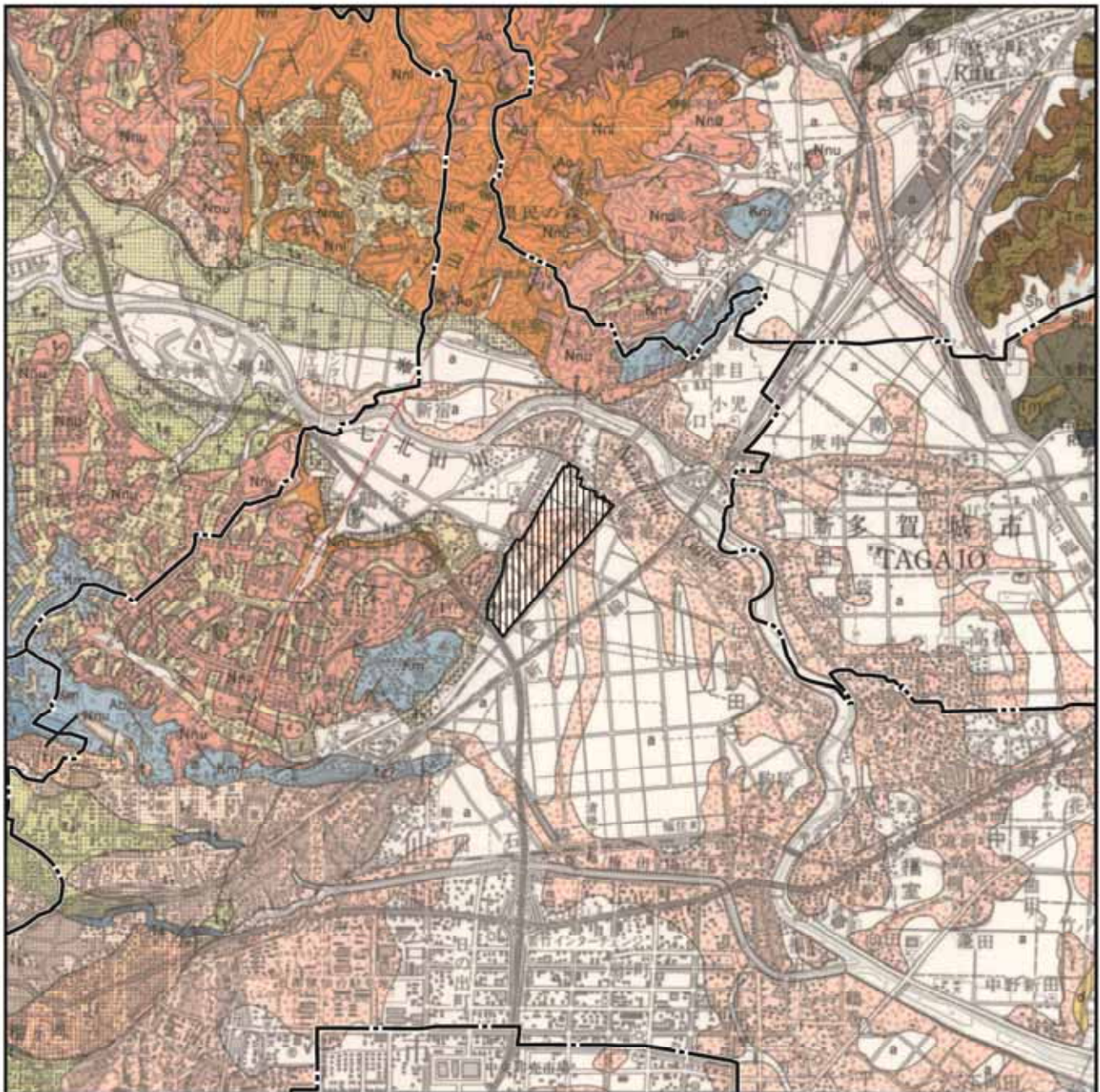
**その他**

-  湿 地
-  泥炭地
-  崖
-  人工平坦界(昭和40年5月現在)

出典：「土地分類基礎調査 地形分類図(仙台)」  
(昭和42年3月、経済企画庁)

図3.1-14 地形分類図





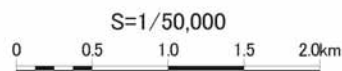
凡例

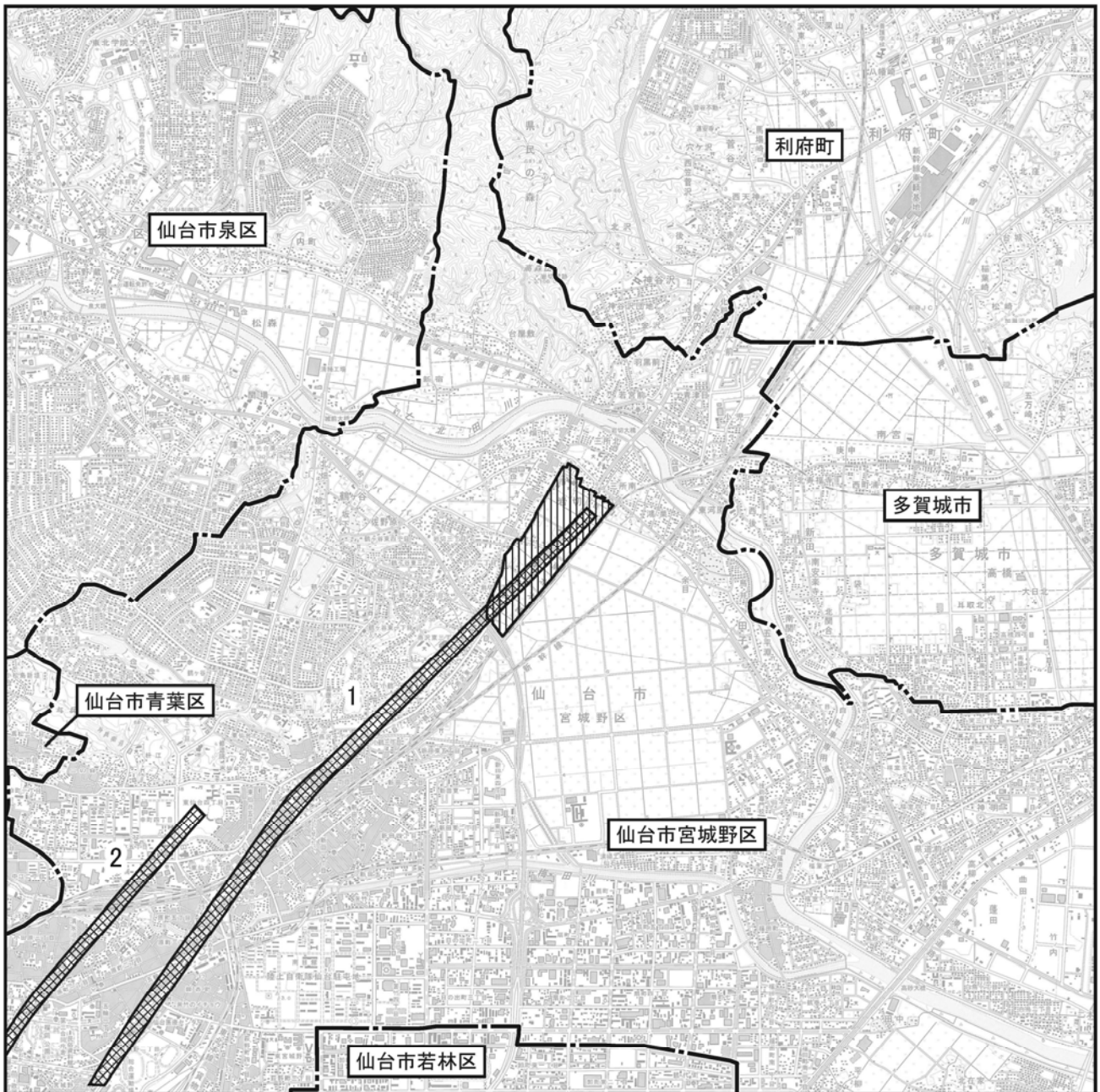
 事業予定区域    
  市町界    
  区界

埋谷土	r	土砂	竜の口層	Tk	シルト岩・砂質シルト岩・凝灰岩及び砂岩
沖積層	a	砂及び粘土(部分的に多賀城火山灰を挟む)	亀岡層	Km	砂岩・凝灰岩・シルト岩・垂炭及び礫岩又は砂混じり砂岩
	i	砂	七北田層	Nnu	砂岩(凝灰岩薄層を挟む)
河岸段丘堆積物	d	砂	入菅谷層	Nnu	砂岩・軽石凝灰岩及び礫岩
	ts	礫層・砂層及び粘土層	青森層	Ab	砂岩・シルト岩及び凝灰岩
	tl	礫層・砂層及び粘土層(一部永野火山灰に覆われる)	番ヶ森山層	Sns	軽石質砂岩及び礫岩
青葉山層	ts	礫層・砂層及び粘土層	佐浦町層	Su	凝灰質砂岩及び凝灰質シルト岩(凝灰岩薄層を挟む)
	tl	礫層・砂層及び粘土層(一部愛島火山灰に覆われる)	塩釜層	Sht	火山円礫岩・凝灰岩及び凝灰質砂岩
留ヶ谷層	ts	粘土質火山灰及び軽石質細粒火山灰	利府層	Rf	頁岩・砂質頁岩及び砂岩
	tl	礫層・砂層及び粘土層(泥岩を挟む)			
	tr	砂岩及び礫岩			
	tr	地層の走向及び傾斜			
					
					
					





出典：「5万分の1地質図幅(仙台)」(昭和61年3月、地質調査所)(産総研地質調査総合センターウェブサイトより)

図3.1-15 地質図



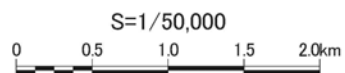


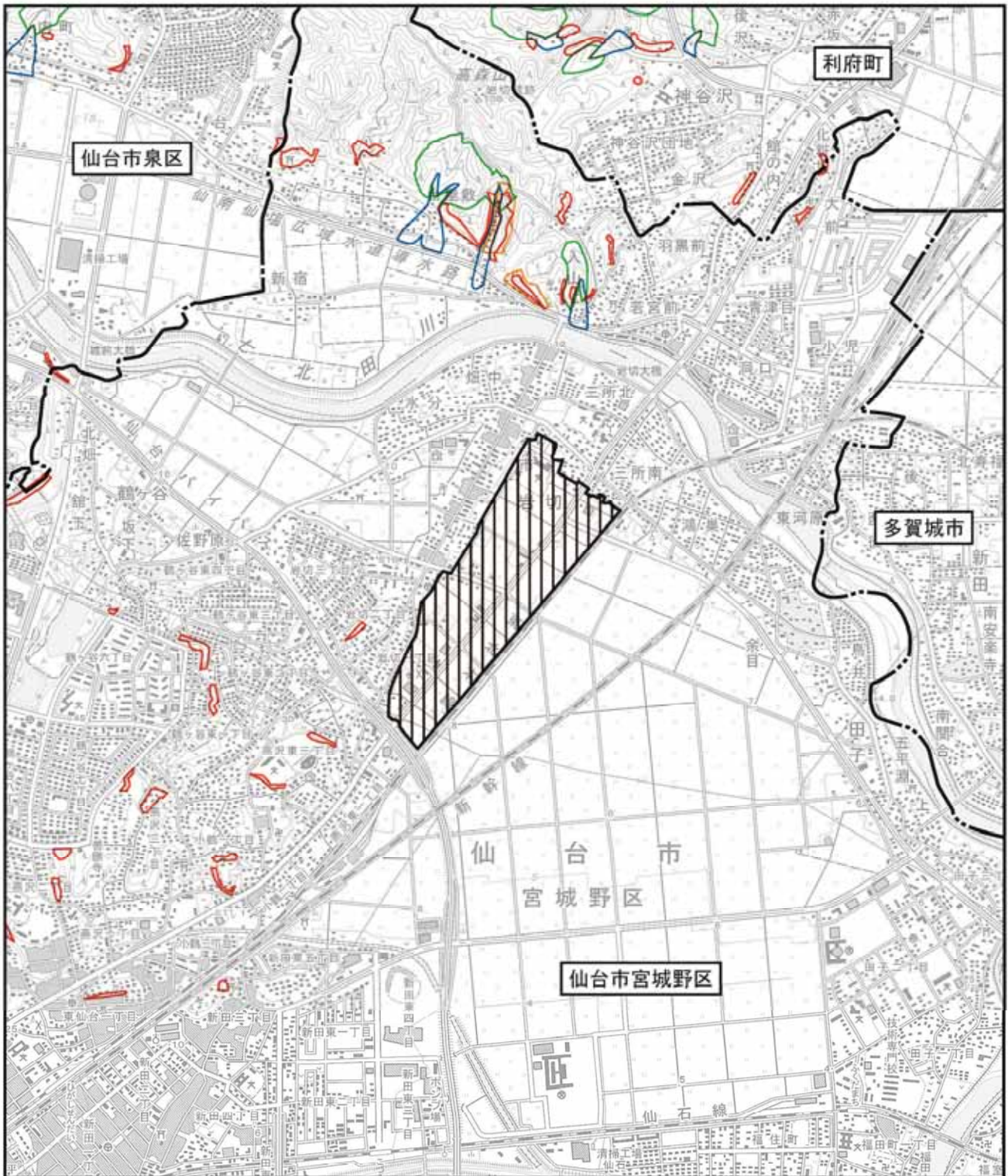
凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  注目すべき地形・地質








注) 図中の番号は、表3.1-48に対応する。  
 出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

図3.1-16 注目すべき地形・地質



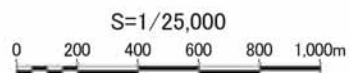


**凡 例**

- |  |  |   |
|--|--|---|
|  事業予定区域 |  急傾斜地崩壊危険区域 |  急傾斜地崩壊危険箇所 |
|  市町界    |  土石流危険溪流    |   |
|  区 界    |  土石流危険区域    |   |

出典：「せんだいぐらしのマップ」(平成29年7月閲覧、仙台市ホームページ)  
「宮城県土砂災害危険箇所図(仙台東北部)」(平成29年7月閲覧、宮城県ホームページ)

図3.1-17 防災関連等指定区域



#### 4) 災害履歴

調査範囲において近年観測された主な災害は、以下に示すとおりである。

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（最大震度7）においては、震度6弱～6強を観測している。

- ・ 昭和53年6月12日 1978年宮城県沖地震※（仙台市：震度5）
- ・ 昭和61年8月4、5日 台風10号およびこれから変わった低気圧による大雨
- ・ 平成6年9月22日 停滞前線による大雨
- ・ 平成20年6月14日 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震※  
（宮城野区・若林区：震度5強、青葉区・泉区：震度5弱）
- ・ 平成22年2月27日 チリ中部沿岸を震源とする地震による津波  
（仙台港：最大1.1m）
- ・ 平成23年3月11日 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震※  
（宮城野区：震度6強、青葉区・若林区・泉区：震度6弱）
- ・ 平成24年8月30日 宮城県沖を震源とする地震  
（宮城野区：震度5強、青葉区・若林区・泉区：震度4）
- ・ 平成27年9月9～11日 平成27年9月関東・東北豪雨※
- ・ 平成28年11月22日 福島県沖を震源とする地震  
（青葉区：震度4、宮城野区・若林区・泉区：震度3）

※ 気象庁が命名した気象及び地震現象

出典：「仙台市が経験した過去の主な災害」（平成29年8月閲覧、仙台市ホームページ）



## (2)地盤沈下

### 1)地盤沈下の状況

「平成27年度 宮城県公害資料(地盤沈下編)」(平成29年3月、宮城県環境生活部)によると、昭和49年以降、仙台市内219地点、多賀城市内24地点、利府町8地点の水準点において、水準測量が実施されている。

調査範囲における主要な水準点として、表2-1に示した関係地域に位置する水準点の測量結果は表3.1-49に示すとおりである。

平成24年度及び平成27年度の変動量は参考値ではあるが、平成22年度から平成24年度にかけては全ての地点で沈下しており、最大で-267mmであった。平成24年度から平成27年度にかけては、1地点を除いて隆起に転じており、最大で+28mmであった。

表3.1-49 水準測量調査結果(平成22,24,27年度)

市名	水準点番号	町(字)名	変動量 (mm)			平成27年度 標高(m)
			平成22年度	平成24年度	平成27年度	
仙台市	5650	燕沢一丁目	-2	-264	10	10.8236
	5651	岩切字山崎	-1	-198	19	10.5414
	5652	岩切字羽黒前	0	-216	23	7.4240
	仙13	岩切一丁目	-2	-267	16	8.2073
	仙15	岩切字中江北	-3	仮点	22	7.2204
	仙17	田子字権八	-5	-247	23	6.1748
	仙18	田子字二木	-4	-251	27	5.7756
	仙19	田子一丁目	-3	-243	25	4.0612
	仙104	小鶴字仙石	-4	仮点	-479	3.5695
	仙106	田子一丁目	-1	-245	16	3.5449
	仙109	岩切三丁目	-1	-197	18	13.1518
	仙110	岩切字青津目	-2	-238	23	6.6538
	仙111	岩切字東河原	-1	-238	24	7.8003
	仙115	松森字斉兵衛	-3	-198	11	19.7965
	仙116	松森字前田	-1	-231	6	17.0275
	仙134	小鶴字屋舗	+2	-208	16	7.8169
	仙139	岩切字鴻巣	-4	-232	23	7.1474
	仙146	岩切字三所南	-3	-234	廃点	8.6973
	仙147	田子三丁目	-4	-266	22	5.5631
仙157	岩切字今市東	-	-196	22	8.6580	
多賀城市	51	南宮字毛上	-1	-248	28	4.9470
	52	新田字袋	-1	-248	26	4.3623
	新TS-1	新田字西後	-2	-259	仮点	7.6676
	TS-4	新田字新後	-1	-238	26	6.2144
	TM-1	南宮字庚申	-2	-255	仮点	4.9761
	TM-2	南宮字町	-1	-250	27	5.0014
	T-1	南宮字色の地	-1	-234	26	4.7808
	T-3	山王字北福寿寺	-2	-225	27	5.2054
	T-7	山王字山王四区	-1	-254	27	4.3746
TS-3	新田字中	-2	-254	26	5.3991	

注) 平成23年東北地方太平洋沖地震に伴う測地成果改正のため、平成24年及び平成27年の変動量・累計は参考値。  
出典:「平成27年度 宮城県公害資料(地盤沈下編)」(平成29年3月、宮城県環境生活部)

## 2) 地下水位の状況

地盤沈下測定局の位置は図3.1-19に、平成27年度の地下水位の状況は表3.1-50に、平成19～27年度における経年変化は表3.1-51及び図3.1-18に示すとおりである。

平成27年度における地下水位の平均値は、標高0.78～3.26mである。

経年変化をみると、ほとんどの地点で、平成19年度から平成22年度にかけては横ばい、平成22年度から平成24年度にかけては低下、平成25年度から平成26年度にかけては上昇しているが、平成27年度には全ての地点で低下に転じており、平成19年度と平成27年度とを比較しても全ての地点で低下していた。

なお、多賀城市の「環境データ（地盤沈下）」（平成29年11月閲覧、多賀城市ホームページ）によると、近年、地盤沈下量の沈静化がみられ、直ちに地盤沈下による被害が生じる恐れはないと考えられることから、市内2ヶ所の地下水位常時観測所は平成25年度に廃止されている。

表3.1-50 地下水位の状況（平成27年度）

単位：標高 m

測定局等名称		所在地	最高値	最低値	平均値
中野測定局	1号井	仙台市宮城野区 中野字高橋前65	3.45	2.60	3.03
	2号井		2.38	1.33	1.85
	3号井		1.26	0.18	0.78
日の出町測定局	1号井	仙台市宮城野区 日の出町3-6	3.54	3.07	3.26
	2号井		3.25	2.29	2.77

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

表3.1-51 地下水位の経年変化（平成19～27年度）

単位：標高 m

測定局等名称	所在地	年度平均値									
		平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	
中野測定局	1号井	3.34	3.43	3.40	3.48	3.18	2.84	2.99	3.13	3.03	
	2号井	2.24	2.33	2.29	2.41	2.20	1.77	1.88	1.98	1.85	
	3号井	1.13	1.28	1.16	1.23	1.50	1.08	1.04	1.08	0.78	
日の出町測定局	1号井	3.51	3.65	3.59	3.59	3.53	3.22	3.23	3.30	3.26	
	2号井	3.00	3.15	3.13	3.21	2.91	2.64	2.67	2.82	2.77	

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」（仙台市環境局）

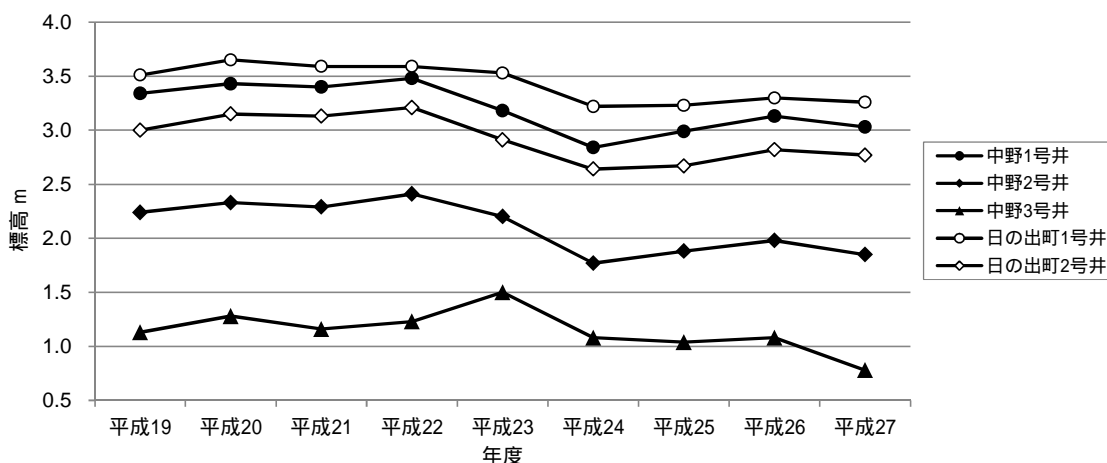
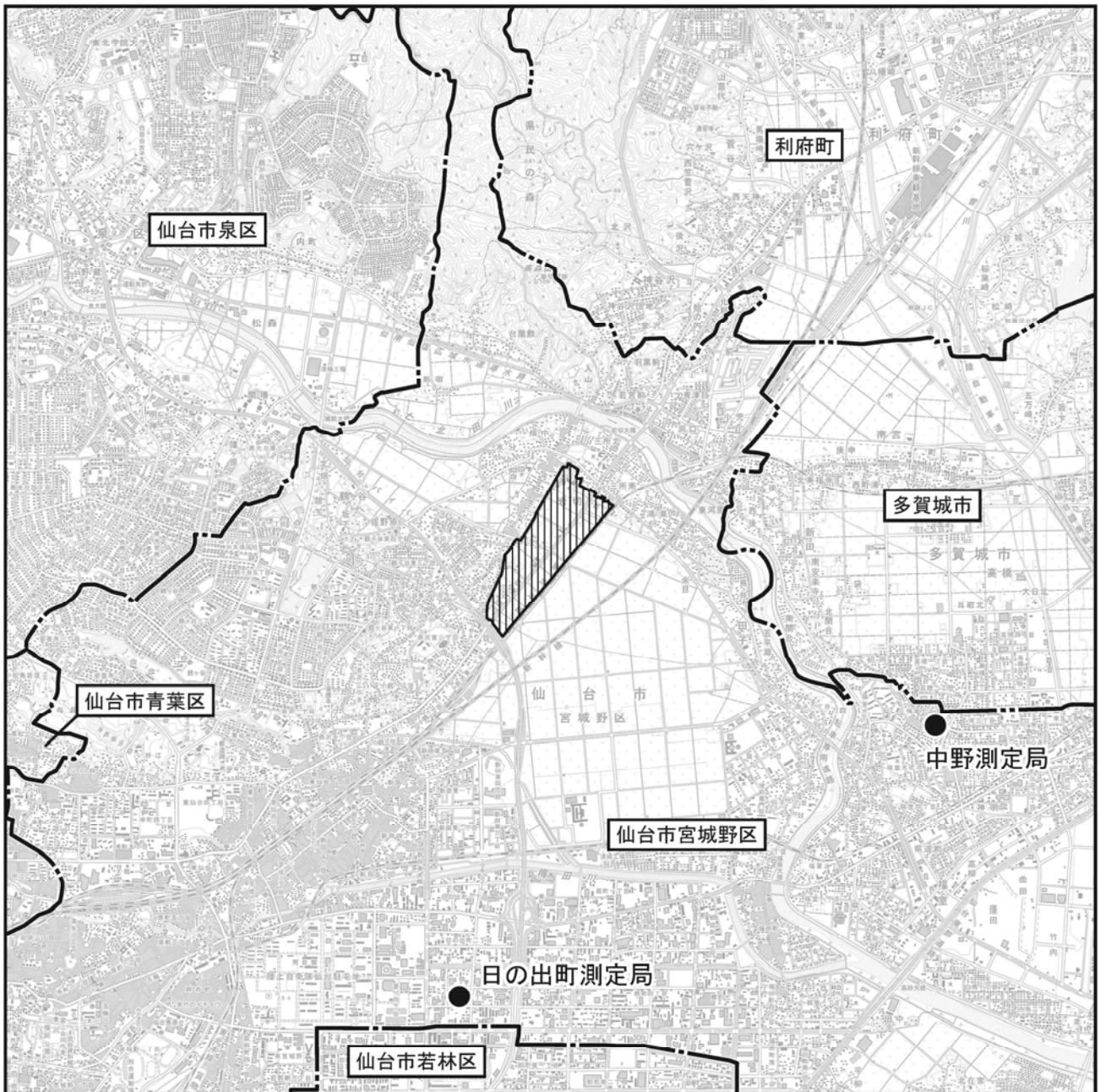


図3.1-18 地下水位の経年変化（平成19～27年度）

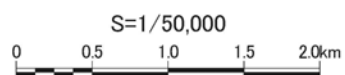


凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  測定局

出典：「公害関係資料集 平成27年度測定結果」(仙台市環境局)

図3.1-19 地盤沈下測定局の位置



### 3) 累積地盤収縮量の状況

中野測定局1～3号井及び日の出町測定局1～2号井における平成23～27年度の累積地盤収縮量の経年変化は、図3.1-20に示すとおり、中野測定局で約22.5～49.4mm、日の出町測定局で約60.5～108.4mmの収縮となっている。

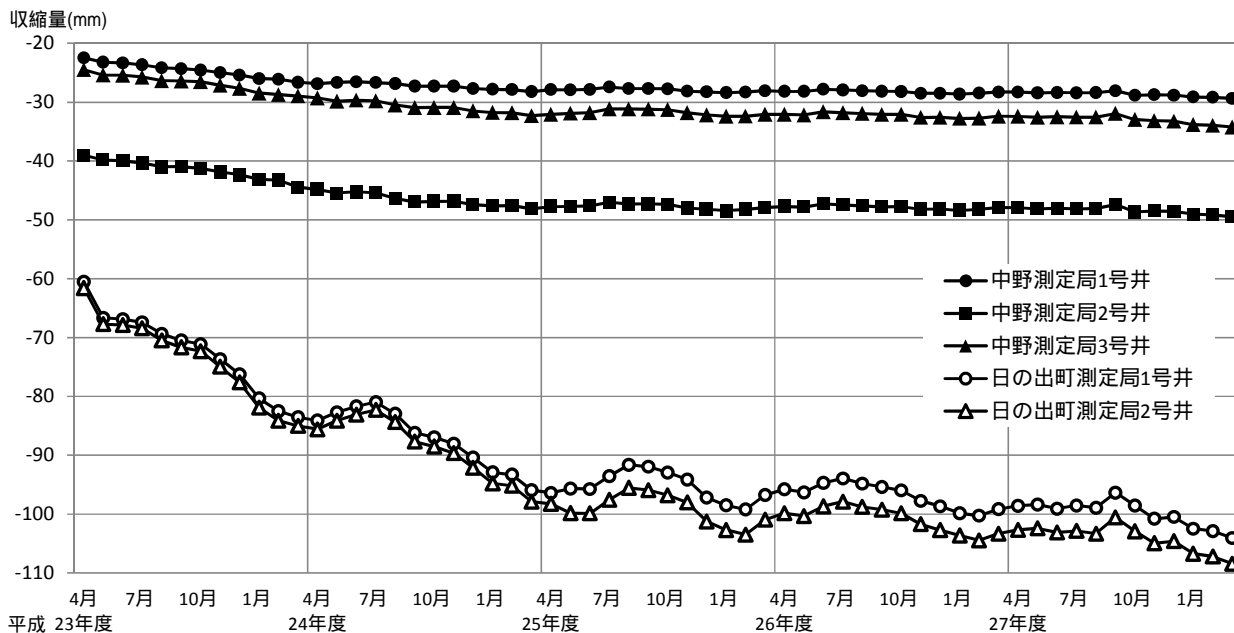


図3.1-20 累積地盤収縮量の経年変化（平成23～27年度）

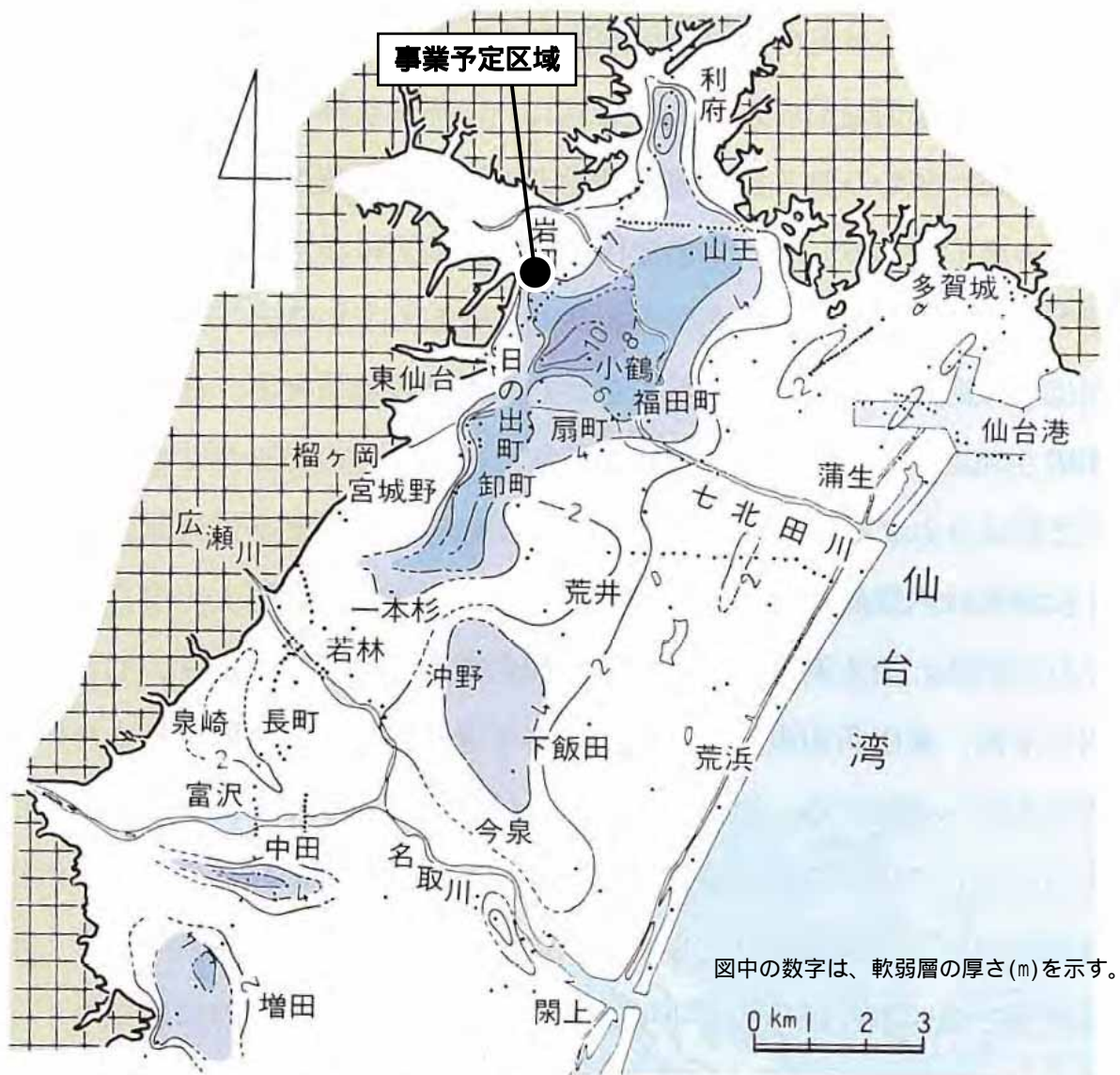
### 4) 地盤沈下に係る苦情の状況

「平成27年度 公害苦情調査結果報告書結果」（宮城県生活環境部）によると、平成27年度における苦情件数は、仙台市及び利府町で0件、多賀城市で1件であった。

5) 地盤沈下が生じやすい地形・地質

地盤沈下の主な原因は、地下水の過剰汲み上げによる地下水位の低下による地盤の圧密沈下であり、沖積層の軟弱な粘土質が厚いほど大きくなる。

地盤沈下が生じやすい軟弱層の分布は図3.1-21に示すとおりであり、事業予定区域の一部や事業予定区域以東に2~4mの軟弱層が分布している。



出典：「仙台市史」(平成6年3月、仙台市)

図3.1-21 軟弱層の分布図

### (3) 土壌汚染

#### 1) 土壌汚染の状況

土壌のダイオキシン類調査の調査地点は図3.1-22に、調査結果は表3.1-52に示すとおりであり、2地点とも環境基準を達成していた。

なお、平成23～27年度のうち平成23～25年度においては、調査範囲での調査は行われていない。

表3.1-52 土壌のダイオキシン類調査結果（平成23～27年度）

単位：pg-TEQ/g

調査地点	所在地	測定結果	環境基準	調査年月日
鶴谷東小学校	宮城野区鶴ヶ谷	0.028	1,000	平成26年10月15～16日
鶴が丘小学校	泉区鶴が丘	1.3		平成27年8月20日

出典：「公害関係資料集 平成23～27年度測定結果」（仙台市環境局）

#### 2) 土壌汚染に係る苦情の状況

「平成27年度 公害苦情調査結果報告書結果」（宮城県生活環境部）によると、平成27年度における苦情件数は、仙台市、多賀城市、利府町とも0件であった。

#### 3) 土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の状況

仙台市のホームページによると、平成29年3月31日現在、調査範囲において土壌汚染対策法第6条に基づく要措置区域はない。また、表3.1-53及び図3.1-22に示す区域が同法第11条に基づく形質変更時要届出区域に指定されている。

表3.1-53 土壌汚染対策法第11条に基づく形質変更時要届出区域

指定番号	所在地	基準を超過した特定有害物質の種類
形-3	宮城野区仙石16番1の一部	砒素及びその化合物
形-5 形-11	宮城野区幸町四丁目1番2の一部	鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物
形-21	宮城野区扇町一丁目8番4、8番5、8番6、8番7、8番40及び8番41の各一部	砒素及びその化合物
形-22	若林区卸町四丁目6番6の一部	鉛及びその化合物、砒素及びその化合物

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域等（平成29年3月31日現在）」（仙台市環境局）



### 3.1.4 生物環境

#### (1) 植物

##### 1) 注目すべき植物種の状況

仙台市は、市域が海岸から奥羽山脈まで広がりを持ち、丘陵地帯は、暖温帯と冷温帯の間に位置する中間地帯と呼ばれる領域が広く占めているという特徴がある。そのため、暖地系及び寒地系の両方の植物がみられ、植物相が多様である。

調査範囲における注目すべき植物種の状況は、以下に示す文献①～③の掲載種より整理した。

文献①については、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、事業予定区域が該当する地域区分「東部田園地域」（表3.1-54参照）における減少種のみを注目すべき種として抽出した。

文献②及び③については、表3.1-55に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。ただし、文献②の掲載種のうち、植栽種は除外した。

整理した結果は表3.1-56(1)～(3)に示すとおりであり、注目すべき植物種は61科154種であった。

- ①「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）
- ②「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月宮城県）
- ③「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月宮城県）



表3.1-54 注目すべき種（減少種）の地域区分

番号	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域(後背の樹林帯も含む)	

注) 事業予定区域は、「4 東部田園地域」に該当する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)  
 「杜の都環境プラン仙台市環境基本計画2011-2020」(平成28年3月仙台市)

表3.1-55 注目すべき種の選定基準

選定理由		番号・記号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布境界となる種。	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。	
		4	1, 2, 3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）。	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。
			B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。
			C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。
			+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。
			/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。 (ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)	
レッドデータ等	国RL (「環境省レッドリスト2017」(平成29年、環境省)掲載種)	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA類	
		EN	絶滅危惧ⅠB類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	県RDB (「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」(平成28年3月、宮城県)掲載種)	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
	天記・種保存法 (「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)における特別天然記念物 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)における天然記念物 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年法律第75号)における国際希少野生動植物)	特天	『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)における国際希少野生動植物	

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

表3.1-56(1) 注目すべき植物種 (1/3)

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	学術上重要な種	注目種		国RL
減少種	環境指標種										
1	ミズニラ	ミズニラ	A			1	○		NT	NT	
2	トクサ	イヌスギナ	B	○	○		○				
3	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	C			1,2	○				
4	オシダ	リョウメンシダ		○	○			○			
5		ジュウモンジシダ		○	○			○			
6	ヒメシダ	ヒメワラビ	B			2	○				
7	メシダ	イヌガンソク	C	○	○		○				
8		クサソテツ	C	○	○		○				
9	サンショウモ	サンショウモ	EX				○		VU	NT	
10	マツ	モミ			○			○			
11	クルミ	オニグルミ	B	○	○		○				
12	ヤナギ	ネコヤナギ		○				○			
13		キツネヤナギ		○	○			○			
14	カバノキ	ハンノキ	B		○	1,4	○	○			
15		ウダイカンバ		○	○	4					
16		サウシバ		○				○			
17		アカシデ		○	○			○			
18		イヌシデ		○		4		○			
19	ブナ	ブナ			○	4					
20		イヌブナ			○	1,4		○			
21		アカガシ	C	○	○	2	○	○			
22		シラカシ	C		○	2	○	○			
23		ウラジロガシ	C	○	○	2	○				
24	ニレ	エノキ	B		○	4	○				
25		ケヤキ	B		○		○	○			
26	タデ	ヒメタデ	B				○		VU	VU	
27		ヤナギヌカボ	C	○		1	○		VU	要	
28		イヌタデ		○				○			
29		サデクサ	C			1	○			NT	
30		ミゾソバ	C	○	○		○	○			
31		ノダイオウ	C	○		1,4	○		VU	要	
32	クスノキ	オオバクロモジ		○				○			
33		シロダモ	+	○	○	2	○	○			
34	キンボウゲ	ニリンソウ	B	○			○	○			
35		イチリンソウ		○						CR+EN	
36		キクザキイチゲ	B	○			○	○			
37		カザグルマ	B	○		1	○		NT	VU	
38	スイレン	オニバス	EX			1	○		VU	EX	
39	マツモ	マツモ	A	○	○	1	○				
40		ヨツバリキンギョモ	A			1,2	○				
41	ツバキ	ヤブツバキ	B		○		○	○			
42	ケシ	ヤマブキソウ		○		1					
43	アブラナ	ナズナ	B	○	○		○	○			
44		ミズタガラシ	B				○			VU	
45		ヨイヌガラシ		○					NT	CR+EN	
46	ユキノシタ	トリアシショウマ	B	○	○		○				
47		タコノアシ	C	○			○		NT		
48	バラ	ザイフリボク		○							
49		ヤマブキ		○	○			○			
50		カスミザクラ		○	○						
51		カジイチゴ	C			1,2	○				
52	マメ	タヌキマメ	EX				○			CR+EN	
53		ツクシハギ	B	○	○		○	○			
54	トウダイグサ	ノウルシ	C				○		NT	要	
55	ユズリハ	ユズリハ	C		○	1,2	○				

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-56(2) 注目すべき植物種 (2/3)

No.	科名	種名	文献		選定基準							
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等				
					①	②	③	学術上重要な種	注目種		国RL	県RDB
減少種	環境指標種											
56	カエデ	メグスリノキ		○		1						
57		ヤマモミジ		○	○			○				
58	グミ	マルバグミ			○						VU	
59	スミレ	サクラスミレ		○		1						
60		ナガハシスミレ	B	○		1	○					
61	ヒシ	ヒシ	B	○	○		○	○				
62	ミズキ	アオキ	C	○	○		○	○				
63	セリ	ハナウド	C				○				NT	
64	イチヤクソウ	ウメガサソウ	C				○	○				
65	ツツジ	ヤマツツジ			○			○				
66	ヤブコウジ	ヤブコウジ		○	○			○				
67	モクセイ	イボタノキ			○			○				
68	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	A			1	○		VU	VU		
69	ガガイモ	コカモメヅル			○	1					VU	
70	ムラサキ	ルリソウ		○							NT	
71	クマツヅラ	カリガネソウ			○						CR+EN	
72	シソ	ヒメハッカ	B			1	○		NT	CR+EN		
73	ゴマノハグサ	アブノメ		○							VU	
74		オオアブノメ	B			1	○		VU	要		
75		サギゴケ	C				○	○				
76		カワヂシャ	B			1	○		NT	NT		
77	タヌキモ	ミミカキグサ	A				○				CR+EN	
78		フサタヌキモ	EX				○		EN	EX		
79		ムラサキミミカキグサ	A			1	○		NT	NT		
80	オオバコ	オオバコ		○	○			○				
81	オミナエシ	オミナエシ	B	○			○	○				
82	キキョウ	キキョウ		○	○			○	VU	VU		
83	キク	オクモミジハグマ		○	○			○				
84		キッコウハグマ		○	○			○				
85		オケラ		○	○			○				
86		アキノキリンソウ		○	○			○				
87		エゾタンポポ	B	○	○		○	○				
88		オナモミ			○				VU	VU		
89	オモダカ	ヘラオモダカ	B	○			○	○				
90		サジオモダカ	B				○	○				
91		アギナシ	B				○	○	NT	VU		
92		ウリカワ	B				○	○				
93		オモダカ	B				○	○				
94		ホソバオモダカ	B				○	○				
95	トチカガミ	クロモ	A		○		○	○				
96		ミズオオバコ	B			1	○		VU	NT		
97		コウガイモ	A				○				CR+EN	
98	ヒルムシロ	エビモ	B	○	○		○	○				
99		ツツイトモ			○				VU	CR+EN		
100		コバノヒルムシロ	B				○	○	VU	VU		
101		ヒルムシロ	B				○	○				
102		フトヒルムシロ	B				○	○				
103		オオミズヒキモ	B				○	○				
104		センニンモ	B				○	○			VU	
105		オヒルムシロ	B	○			○	○				
106		ホソバミズヒキモ	B				○	○			VU	
107		イトモ	B			1	○		NT	要		
108	イバラモ	イトリゲモ	A			1	○		NT	NT		
109		トリゲモ	A			1	○		VU	CR+EN		
110		オオトリゲモ	A			1	○				CR+EN	

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-56(3) 注目すべき植物種 ( 3/3 )

No.	科名	種名	文献		選定基準								
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等					
					①	②	③	学術上重要な種	注目種		国R L	県R D B	天記・種保存法
111	ユリ	スズラン		○							VU		
112		カタクリ	B	○			○						
113		ショウジョウバカマ		○				○					
114		ニッコウキスゲ	B	○	○		○						
115		コオニユリ	B				○						
116		ヒメヤブラン		○	○			○					
117		ユキザサ		○				○					
118	キンバイザサ	コキンバイザサ	EX			1,2	○				EX		
119	ミズアオイ	ミズアオイ	C				○	○	NT				
120		コナギ	C				○	○					
121	アヤメ	ヒメシャガ		○					NT	NT			
122		カキツバタ	A			1	○		NT	VU			
123	イネ	メヒシバ		○	○			○					
124		カゼクサ	C		○		○	○					
125		オオウシノケグサ	B	○	○	4	○	○					
126		ウキガヤ	C				○				NT		
127		エゾノサヤヌカグサ	C				○						
128		オギ	C	○			○	○					
129		ヨシ	C	○	○		○	○					
130		ツルヨシ	C				○	○					
131		スズタケ		○				○					
132		ネズミノオ	C		○		○	○					
133		ハイドジョウツナギ		○							VU		
134		マコモ	B		○		○	○					
135		シバ	B		○		○	○					
136	サトイモ	ヒメザゼンソウ	C				○						
137	ミクリ	ミクリ	B	○		1	○	○	NT	NT			
138		ヤマトミクリ	A			1	○		NT	CR+EN			
139		ナガエミクリ	A				1	○	NT	NT			
140	ガマ	ヒメガマ	C	○	○		○						
141		ガマ	C	○	○		○	○					
142	カヤツリグサ	ヤマクボスゲ		○					NT	VU			
143		センダイスゲ		○	○	4							
144		ニイガタガヤツリ		○					CR	要			
145		フトイ	B				○						
146		カンガレイ	B	○			○						
147		サンカクイ	B	○	○		○						
148		ラン	キンラン		○					VU	VU		
149			シュンラン	C	○	○		○	○				
150	セッコク		EX				1	○			CR+EN		
151	ミズトンボ		B				1	○		VU	CR+EN		
152	ジガバチソウ			○	○						NT		
153	ツレサギソウ		C	○			○				NT		
154	ネジバナ		B	○			○	○					
計	61科	154種	103種	79種	64種	46種	103種	74種	35種	55種	0種		

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

## 2) 植生の状況

現存植生図は図3.1-23に示すとおりである。事業予定区域の現存植生は、大部分が「水田雑草群落」となっており、一部に「畑雑草群落」「市街地」がみられる。

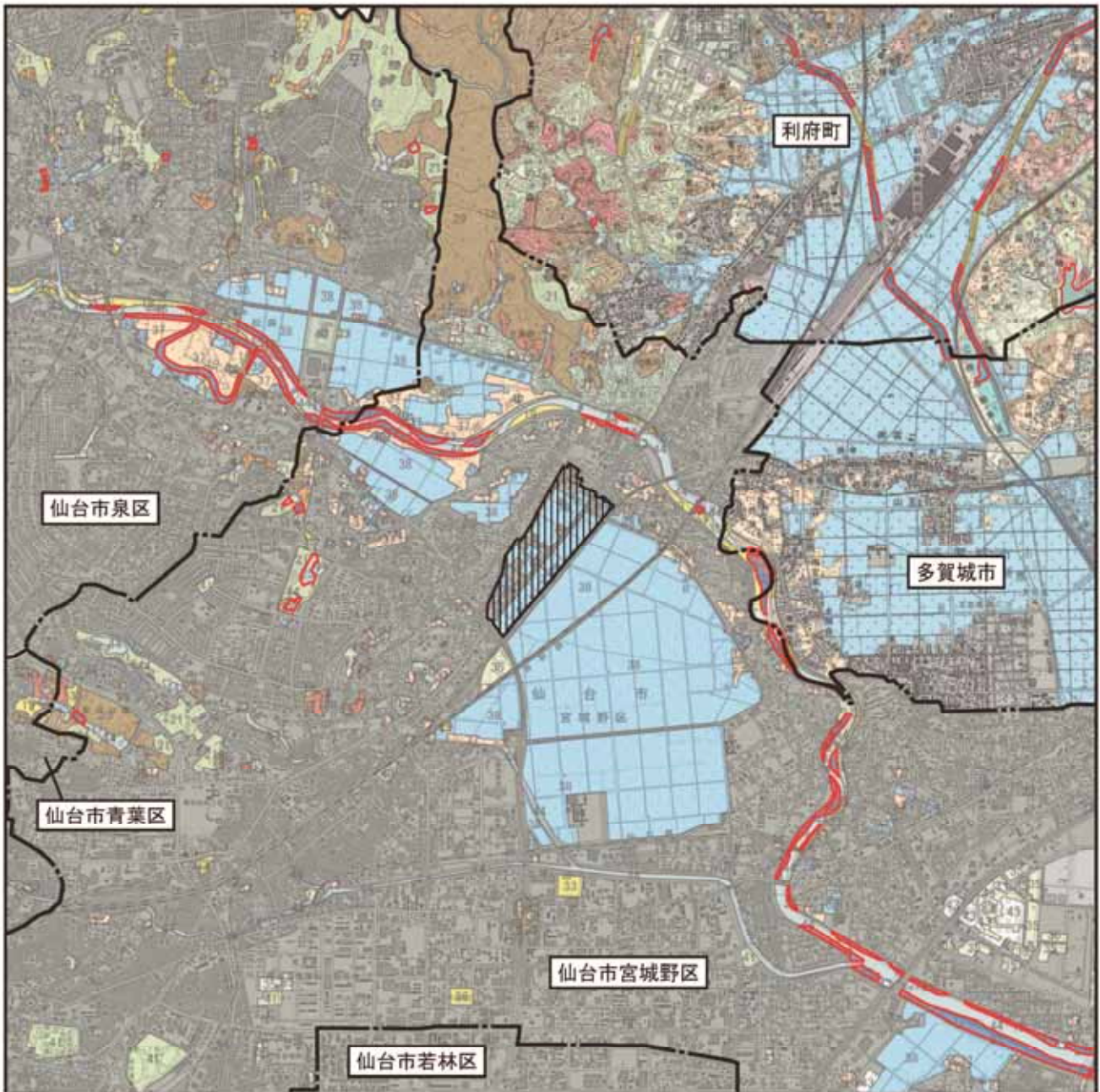
仙台市では、「平成28年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成29年3月、仙台市）において、環境省の植生自然度9、10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」として位置づけている。自然性の高い植生の分布は図3.1-23に示すとおりであり、七北田川等の川沿いのヨシクラス（植生自然度10）及びヤナギ低木群落（植生自然度9）、鶴ヶ谷中央公園内のヒルムシロクラス（植生自然度10）が該当している。また、多賀城市と利府町にまたがる加瀬沼にヒルムシロクラス（植生自然度10）が分布している。なお、事業予定区域の植生は「自然性の高い植生」に該当していない。

植生自然度区分は表3.1-57に示すとおりである。





表3.1-57 植生自然度区分

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落
3	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」（平成28年3月、環境省生物多様性センター）



**凡 例**

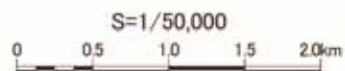
-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  植生自然度9,10

※植生の凡例は、次のページに示す。

出典：

仙台市部分：「平成27年度仙台市現存植生図(平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査)」(平成28年3月、仙台市)  
 多賀城市、利府町部分：「第6-7回自然環境保全基礎調査 1/25,000植生図(仙台東北部)」  
 (環境省生物多様性センター 植生図画像ダウンロード) (平成29年6月閲覧)

図3.1-23 現存植生図



## 凡 例

### 【仙台市部分】

17	アカマツ群落(V)
22	アズマネザサ群落
21	クリ-コナラ群集
33	ゴルフ場・芝地
29	スギ・ヒノキ・サワラ植林
19	ススキ群団(V)
25	ヒルムシロクラス
12	ヤナギ低木群落(IV)
23	ヨシクラス
42	工場地帯
39	市街地
36	果樹園
41	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
38	水田雑草群落
37	畑雑草群落
40	緑の多い住宅地
45	自然裸地
18	落葉広葉低木群落
35	路傍・空地雑草群落
43	造成地
44	開放水域

### 【多賀城市、利府町部分】

13	アカマツ群落
21	クリ-コナラ群集
h	ゴルフ場・芝地
30	スギ・ヒノキ・サワラ植林
14	ススキ群団
15	伐採跡地群落
27	ヒルムシロクラス
23	クズ群落
24	ヨシクラス
36	竹 林
k	市街地
e	果樹園
b	水田雑草群落
a	畑雑草群落
d	放棄水田雑草群落
i	緑の多い住宅地
f	路傍・空地雑草群落
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	造成地
w	開放水域

出典：

仙台市部分：「平成27年度仙台市現存植生図(平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査)」(平成28年3月、仙台市)

多賀城市、利府町部分：「第6-7回自然環境保全基礎調査 1/25,000植生図(仙台東北部)」

(環境省生物多様性センター 植生図画像ダウンロード)(平成29年6月閲覧)

図3.1-23 現存植生図【凡例】

### 3) 保全上重要な植物の生育地の状況

「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）による、仙台市における植物生育地として重要な地域の選定基準は表3.1-58に、調査範囲における重要な地域は表3.1-59及び図3.1-24に示すとおりである。

また、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」（平成28年3月、宮城県）による希少な植物群落のカテゴリー区分は表3.1-60に示すとおりであり、調査範囲において該当する植物群落は表3.1-61(1)～(2)及び図3.1-24に示すとおりである。

事業予定区域は、植物生育地として重要な地域に含まれていない。

表3.1-58 植物生育地及び動物生息地として重要な地域の選定基準（仙台市）

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域 （山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

表3.1-59 植物生育地として重要な地域

No.	市町名	件名	備考	判断理由※
1	仙台市	洞雲寺のコナラ林	コナラの大木を主体とする自然度の高い社寺林。下層にはモミの若木が生長し、植生遷移を考察する上で貴重。また住宅団地域に残る自然緑地としても重要。	5,6,7
2		七北田川下流域の河畔植生	ヨシ群落自然植生度10のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	8,9
3		与兵衛沼周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7,8
4		榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
5		県民の森	県民の森緑地環境保全地域。仙台市北東部で市街地に隣接する緑地、公園。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5,6,7
6		燕沢三丁目の緑地	燕沢三丁目の特別緑地保全地区。市街地に残された景観上優れた緑地として重要。	7
7	多賀城市、利府町	加瀬沼	加瀬沼緑地環境保全地域。都市近郊でありながら、多様な自然環境が残されている貴重な地域。	—

※ 表3.1-58に対応する。

注) No.は、図3.1-24に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月宮城県）



表3.1-60 希少な植物群落のカテゴリー区分

カテゴリー		絶滅危機の度合い
D	壊滅	群落は壊滅した。
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	対策を講じなければ、群落は徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	現在、保護・管理状態がよく、当面破壊されるおそれが少ない。 しかし、監視は必要である。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」（平成28年3月、宮城県）

表3.1-61(1) 希少な植物群落（単一群落）

No.	植生タイプ	群落タイプ	群落名	カテゴリー※
A	二次林(中間温帯)	コナラ群落	洞雲寺のコナラ群落	3

※ 表3.1-60に対応する。

注) No.は、図3.1-24に対応する。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」  
(平成28年3月、宮城県)

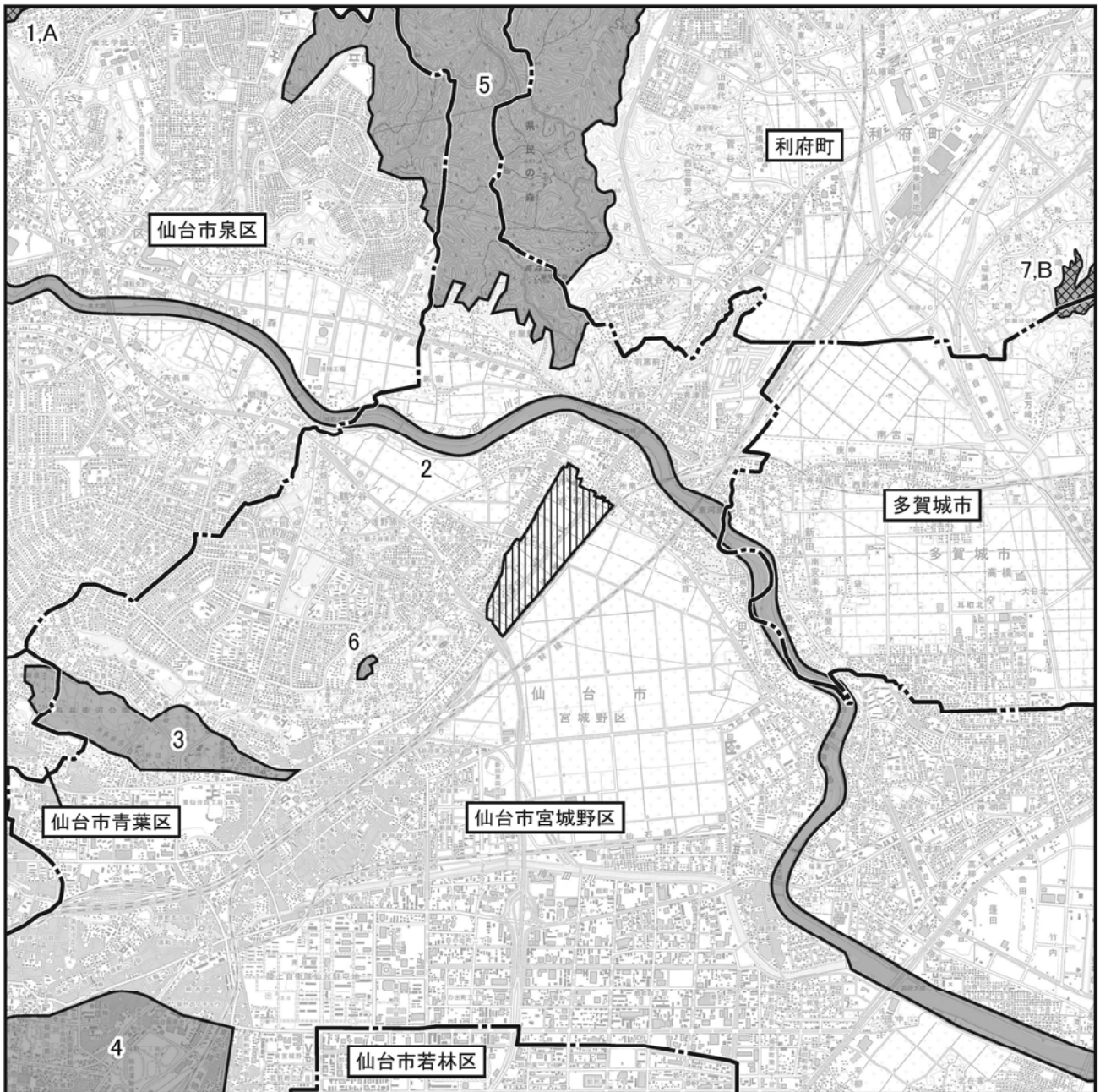
表3.1-61(2) 希少な植物群落（群落複合(植生)）

No.	植生タイプ	群落名	カテゴリー※
B	池沼植生	加瀬沼の池沼植物群落	3






※ 表3.1-60に対応する。

注) No.は、図3.1-24に対応する。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」  
(平成28年3月、宮城県)



**凡 例**

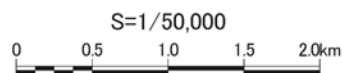
-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  植物生育地として重要な地域 (1~7)
-  宮城県レッドデータブックで選定された植物群落 (A~B)

注) 図中の番号は、表3.1-59.61(1)~(2)に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」(平成28年3月、宮城県)

図3.1-24  
植物生育地として重要な地域及び  
宮城県レッドデータブックで選定された植物群落



## (2)動物

### 1)注目すべき動物種の状況

調査範囲は市街地や田園地域であり、人の生活空間の拡大や農地の区画整備、各種開発事業等により動物の生息環境が減少しているが、市街地に残された公園、田園地域にみられる居久根などの緑地や河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミなどが生息している。

調査範囲における注目すべき動物種の状況は、以下に示す文献①～③の掲載種より整理した。

文献①については、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、事業予定区域が該当する地域区分「東部田園地域」（表3.1-54参照）における減少種のみを注目すべき種として抽出した。

文献②及び③については、表3.1-55に示した選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。

整理した結果は表3.1-62～67に示すとおりであり、調査範囲における注目すべき動物種は、哺乳類7科12種、鳥類29科69種、爬虫類3科6種、両生類6科13種、魚類12科29種、昆虫類25科37種であった。

- ①「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）
- ②「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月宮城県）
- ③「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月宮城県）

表3.1-62 注目すべき動物種（哺乳類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	学術上重要な種	注目種		国RL
1	トガリネズミ	ホンシュウ(シントウ)トガリネズミ	/				○	○			
2		ホンシュウジネズミ	C				○	○			
3		カワネズミ	/			1,4	○	○		DD	
4	モグラ	ヒメヒミズ	/			1	○	○			
5		ミズラモグラ	/			1,4	○		NT	NT	
6	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	C			1,4	○	○	VU	VU	
7	ヤマネ	ヤマネ	/			1,4	○			NT	天記
8	ネズミ	ハタネズミ	C	○			○	○			
9		(ホンド)ヒメネズミ	/	○			○	○			
10	イヌ	(ホンド)タヌキ	+	○			○	○			
11	イタチ	(ホンド)イタチ	C	○			○	○			
12		(ホンド)オロジョ	/			1,4	○		NT	NT	
計	7科	12種	12種	4種	0種	6種	12種	9種	3種	5種	1種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」（平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省）に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月、宮城県）

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）

表3.1-63(1) 注目すべき動物種（鳥類）(1/2)

No.	科名	種名	文献			選定基準					
			①	②	③	仙台市における 保全上重要な種		レッドデータ等			
						学術上 重要な種	注目種		国 R L	県 R D B	天 記 ・ 保 存 法
1	キジ	ウズラ	A				1,4	○			
2		ヤマドリ		○		1,4		○			
3	カモ	ヒシクイ	C				○		VU	NT	天記
4		マガン	B		○	1,4	○		NT		天記
5	カイツブリ	カイツブリ	C	○	○		○	○			
6	サギ	サンカノゴイ	B			1	○		EN	NT	
7		ヨシゴイ	C	○		1,4	○	○	NT	NT	
8		オオヨシゴイ	B			1,4	○		CR	CR+EN	
9		アマサギ	+			4	○	○			
10		チュウサギ	C			1,2,4	○		NT		
11		コサギ	+	○	○		○	○			
12	クイナ	クイナ	B			1,4	○			要	
13		ヒクイナ	B			1,4	○		NT	CR+EN	
14		バン	C		○	1,4	○	○			
15		オオバン	B		○		○				
16	カッコウ	ホトギス	C	○	○	1,4	○	○			
17		カッコウ	C	○		1,4	○	○			
18	チドリ	イカルチドリ	B		○	1,4	○	○			
19	シギ	オオジシギ	B			1,4	○		NT	NT	
20		アカアシシギ	B			1	○		VU		
21	カモメ	コアジサシ	B			1,2,4	○		VU	VU	国際
22	ウミスズメ	ウミスズメ	/			1,4	○		CR		
23	ミサゴ	ミサゴ	C			1,4	○	○	NT		
24	タカ	オジロワシ	B			1,2,4	○		VU	VU	天記・ 国内・ 国際
25		オオワシ	B			1,2,4	○		VU	VU	天記・ 国内
26		チュウヒ	C			1,4	○	○	EN	NT	
27		ツミ	C	○		1,4	○			DD	
28		ハイタカ	C	○	○	1,4	○		NT	NT	
29		オオタカ	B	○	○	1,4	○	○	NT	NT	国内
30		サンバ	C	○		1,4	○		VU	VU	
31		ノスリ	C	○	○		○	○			
32	フクロウ	オオコノハズク	B			1	○			要	
33		フクロウ	B	○		1	○	○			
34		アオバズク	B			1	○	○		VU	
35		トラフズク	B			1	○				
36		コミズク	B			1	○	○		要	
37	カワセミ	カワセミ	C	○	○	1,4	○	○			
38	キツツキ	アカゲラ	C	○	○		○				
39		アオゲラ	C	○	○		○	○			
40	ハヤブサ	チョウゲンボウ	C			1,4	○				
41		チゴハヤブサ	B				○			要	
42		ハヤブサ	B	○		1,4	○		VU	NT	国内・ 国際
43	サンショウクイ	サンショウクイ	C	○	○		○		VU	VU	
44	カササギヒタキ	サンコウチョウ		○	○	1		○			
45		チゴモズ	B			1,4	○		CR	CR+EN	
46	モズ	モズ	C	○	○	1	○	○			
47		アカモズ	B			1,4	○		EN	CR+EN	
48	ヒバリ	ヒバリ	C	○	○		○	○			
49	ツバメ	ツバメ	C	○	○		○	○			
50	ウグイス	ウグイス	C	○	○	1,4	○	○			
51	ムシクイ	センダイムシクイ		○	○			○			
52	ヨシキリ	オオヨシキリ	C	○	○	1,4	○	○			
53		コヨシキリ	C			1,4	○	○			

注1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥類学会)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-63(2) 注目すべき動物種（鳥類）(2/2)

No.	科名	種名	文献		選定基準							
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等				
					①	②	③	学術上重要な種	減少種	環境指標種	国RL	県RDB
54	セッカ	セッカ	C			1,4	○	○				
55	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		○				○				
56	ヒタキ	トラツグミ	C	○	○		○	○				
57		クロツグミ	C	○		1,4	○	○				
58		シロハラ		○	○			○				
59		コルリ	C			1,4	○	○				
60		ルリビタキ	C	○	○			○				
61		コサメビタキ		○	○			○				
62		キビタキ		○	○			○				
63		オオルリ	C	○	○	1,4	○	○				
64		セキレイ	キセキレイ	C	○	○	1,4	○	○			
65	セグロセキレイ		C	○	○	4	○					
66	ホオジロ	ホオジロ	C	○	○		○	○				
67		ホオアカ	C	○	○		○	○				
68		アオジ	C	○	○			○	○			
69		コジュリン	B			1,4	○			VU	VU	
計	29科	69種	62種	36種	32種	48種	62種	39種	24種	25種	7種	

注1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥類学会)に準拠した。  
 注2) 「学術上重要種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。  
 文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)  
 文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)  
 文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-64 注目すべき動物種（爬虫類）

No.	科名	種名	文献		選定基準							
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等				
					①	②	③	学術上重要な種	注目種 減少種	環境指標種	国RL	県RDB
1	カナヘビ	ニホンカナヘビ	C	○	○			○	○			
2	ナミヘビ	アオダイショウ	C	○	○			○	○			
3		ジムグリ	C					○	○			
4		ヒバカリ	C					○	○			
5		ヤマカガシ	C	○				○	○			
6	クサリヘビ	ニホンマムシ	C		○			○				
計	3科	6種	6種	3種	3種	0種	6種	5種	0種	0種	0種	

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。  
 注2) 「学術上重要種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。  
 文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)  
 文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)  
 文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-65 注目すべき動物種（両生類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	注目種		国 R L	県 R D B
学 術 上 重 要 種	環 境 指 標 種										
1	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	/	○	○	4	○	○	NT	NT	
2		クロサンショウウオ	/	○	○		○	○	NT	LP	
3		キタオウシュウサンショウウオ	/			2	○	○		NT	
4	イモリ	アカハライモリ	C	○			○	○	NT	LP	
5	ヒキガエル	アズマヒキガエル	C	○	○		○				
6	アマガエル	ニホンアマガエル	+	○	○		○	○			
7	アカガエル	タゴガエル	/				○				
8		ニホンアカガエル	C	○	○		○				
9		トウキョウダルマガエル	C	○			○	○	NT	NT	
10		ツチガエル		○			○	○		NT	
11	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	C		○		○	○			
12		モリアオガエル	/				○	○			
13		カジカガエル	/				○	○			
計	6科	13種	12種	8種	6種	2種	12種	10種	4種	6種	0種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」（平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省）に準拠した。

注2) 「学術上重要種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月、宮城県）

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）

表3.1-66 注目すべき動物種（魚類）

No.	科名	種名	文献			選定基準					
			①	②	③	仙台市における 保全上重要な種		レッドデータ等			
						学術上 重要な種	注目種		国 R L	県 R D B	天 記 ・ 種 保 存 法
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ	C*	○			1	○			
2		カワヤツメ	/			1	○		VU	DD	
3	ウナギ	ニホンウナギ	C			1	○	○	EN	NT	
4	コイ	キンブナ	C	○			○		VU	NT (河川の キンブナ)	
5		テツギョ	/			1	○			CR+EN	
6		タナゴ	EX				○		EN	CR+EN	
7		アカヒレタビラ	EX				○		EN	CR+EN	
8		ゼニタナゴ	EW				○		CR	CR+EN	
9		エゾウグイ	/			1,4	○		LP	VU	
10		ウグイ	+		○		○	○			
11		シナイモツゴ	/			1,4	○		CR	CR+EN	
12	ドジョウ	ドジョウ		○	○				DD		
13		ホトケドジョウ	C	○		1	○	○	EN	NT	
14	ギギ	ギバチ	C			1	○		VU	NT	
15	アユ	アユ	+				○	○			
16	サケ	ニッコウイワナ	/				○		DD		
17		サクラマス	C			1	○	○	NT	NT (降海型)	
18		サクラマス(ヤマメ)	+				○	○	NT		
19	メダカ	ミナメダカ	C		○	1	○	○	VU	NT	
20	サヨリ	クルマサヨリ	/			1	○		NT	DD	
21	トゲウオ	ニホンイトヨ	A			1,4	○		LP	DD	
22	カジカ	カジカ	/				○	○	NT		
23	ハゼ	シロウオ	/				○		VU	VU	
24		ヒモハゼ	/			1	○	○	NT	NT	
25		スミウキゴリ	+			1	○		LP		
26		ヘビハゼ	/			1	○		DD	DD	
27		エドハゼ	/			1,2	○		VU	VU	
28		マサゴハゼ	/			1,2	○		VU	CR+EN	
29		アベハゼ	C			2	○			NT	
計	12科	29種	28種	4種	3種	18種	28種	9種	25種	22種	0種

※ 「スナヤツメ類」として掲載されている。

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト」(平成27年、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3.1-67 注目すべき動物種（昆虫類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	注目種		国 R L	県 R D B
学 術 上 重 要 種	環 境 指 標 種	減 少 種	環 境 指 標 種								
1	イトトンボ	ヒヌマイイトトンボ	EX			1,2	○		EN	CR+EN	
2	ムカシトンボ	ムカシトンボ	/			1,4	○	○			
3	ヤンマ	マダラヤンマ	C				○		NT	NT	
4		マルタンヤンマ	C				○			NT	
5		カトリヤンマ	B			1	○			CR+EN	
6	サナエトンボ	ウチワヤンマ	C			1	○				
7	トンボ	ナツアカネ	C		○		○	○			
8		マユタテアカネ	C		○		○	○			
9		アキアカネ	C		○		○	○			
10		フシトトンボ	C	○	○		○	○			
11		マイコアカネ	C		○		○	○			
12	マツムシ	スズムシ	B			1	○				
13	バッタ	カワラバッタ	B			1	○	○		NT	
14	セミ	エゾゼミ			○			○			
15	コオイムシ	コオイムシ	A			1	○		NT	NT	
16		タガメ	A			1	○	○	VU	CR+EN	
17	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			○				VU		
18		オオウラギンヒョウモン	EX				○		CR	EX	
19		オオムラサキ	B		○	1	○	○	NT		
20	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	+		○	4	○	○			
21	シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道 ・本州亜種	EX				○		EN	CR+EN (ヒメシロチョウ)	
22	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	C	○			○	○			
23	ヤマユガ	オナガミズアオ		○					NT		
24	オサムシ	ヤマトックリゴミムシ			○	1					
25		シラハタキバナガゴミムシ		○						DD	
26	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	B			1	○		VU	NT	
27		ケシゲンゴロウ		○					NT		
28	ガムシ	コガムシ			○					DD	
29	クワガタムシ	ミヤマクワガタ		○				○			
30		ノキリクワガタ	C	○			○	○			
31	タマムシ	タマムシ(ヤマトタマムシ)	A			1,2	○			NT	
32	ホタル	ゲンジボタル	C			1	○	○		NT	
33	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ		○					EN	CR+EN	
34	スズメバチ	モンズズメバチ		○					DD		
35	ミツバチ	クロマルハナバチ		○					NT		
36	コハナバチ	アオスジハナバチ		○		1,2				CR+EN	
37	ハキリバチ	マイマイツツハナバチ		○		1			DD	VU	
計	25科	37種	24種	13種	10種	16種	24種	15種	16種	16種	0種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト」(平成27年、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3.1-55に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)



## 2) 保全上重要な動物の生息地の状況

動物生息地として重要な地域は表3.1-68及び図3.1-25に示すとおりであり、そのうち仙台市における選定基準は表3.1-58に示したとおりである。

事業予定区域の一部が、「福田町の田園」に含まれている。

表3.1-68 動物生息地として重要な地域

No.	市町名	件名	備考	判断理由※
1	仙台市	七北田川 (中流域～河口)	野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。【対象：哺乳類、鳥類】	2,8
2		低地の水田地帯	野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。セッカの繁殖、ホオアカの繁殖、四郎丸地区はメダカの生息地。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。【対象：鳥類、魚類】	1,7,8
3		福田町の田園	市街地の内部に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。環境学習のフィールドとして重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。【対象：鳥類】	5,7
4		県民の森	市街地の南部に位置する緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地、環境学習のフィールドとして重要である。【対象：動物全般】	6,7
5		与兵衛沼公園	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。【対象：動物全般】	1,6,7
6	多賀城市、利府町	加瀬沼	加瀬沼緑地環境保全地域。都市近郊でありながら、多様な自然環境が残されている貴重な地域。	—

※ 表3.1-58に対応する。

注) No.は、図3.1-25に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

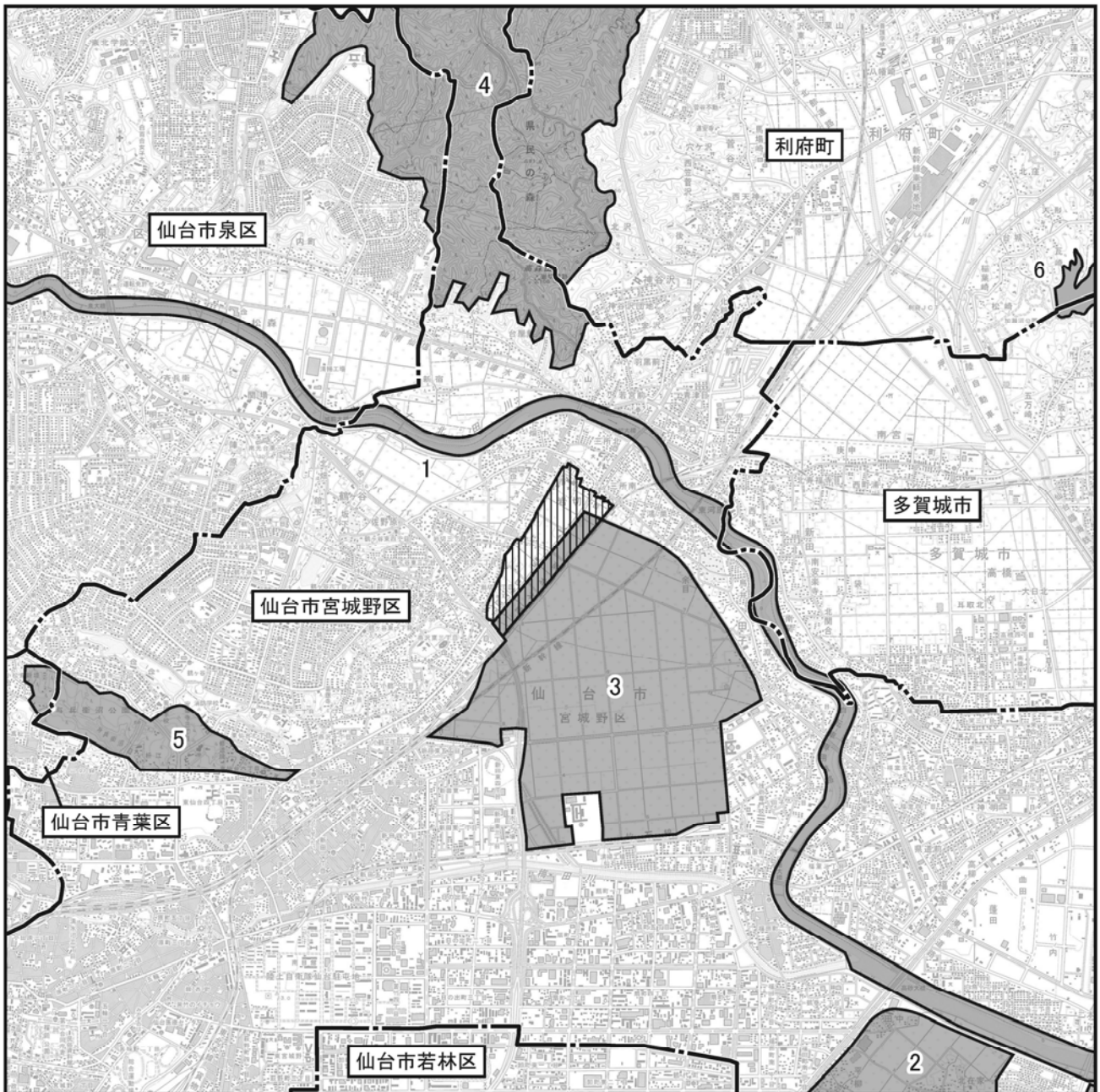
「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）

## (3) 生態系





事業予定区域は、沖積平野に位置し、沖積平野の西側は丘陵地に接している。

事業予定区域は、北側を七北田川、南側を高野川に挟まれた平坦な地形である、市街地の内部に残されたまとまった広がりをもつ田園生態系となっている。事業予定区域の現存植生は、大部分が「水田雑草群落」となっており、一部に「畑雑草群落」「市街地」がみられる。

調査範囲では、北側に位置する県民の森において豊富な動物や植物がみられるほか、七北田川沿いや鶴ヶ谷中央公園内等に自然性の高い植生が分布している。動物は、人の生活空間の拡大等により生息環境が減少しているが、市街地に残された公園、田園地域にみられる居久根などの緑地や河川沿いなどで、キツネ、イタチ、カワセミ等の生息の記録がある。



**凡 例**

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  動物生息地として重要な地域 (1~6)

注) 図中の番号は、表3.1-68|に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)  
「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

図3.1-25 動物生息地として重要な地域

